

令和6年度(2024年度)調査研究事業報告書

生涯学習事業に係る県内の現状 及び県外の先進事例



【R6くまもと県民カレッジ
主催講座(前期)リーフレッ
ト表紙】



【R6地域の人づくり講座
(地域教室)】



【R7くまもと県民カレッジ
認定講師一覧表紙】

令和7年(2025年)4月
熊本県教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 調査研究の概要	2
第2章 市町村の生涯学習事業の現状及び考察	3～25
第3章 県と市町村の連携事業	
1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告	26～33
【事例1】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（合志市）	
【事例2】生涯学習・生きがいつくりの場としての「たまり場」づくりを目的とした講座（小国町）	
2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告	34～39
【事例3】山村留学を核とした、地域人材の発掘、育成を目的とした講座（産山村）	
【事例4】地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目的とした講座（和水町）	
3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告	40～42
【事例5】地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目的とした講座（上天草市）	
第4章 学習機会提供事業	
【県民カレッジ主催講座】	43～46
①「友好台湾」コース	
②「科学技術」コース	
③「哲学カフェ」コース	
④「戦争と平和」コース	
第5章 他県の先進事例	47～50
【事例】生涯学習の推進「大阪市立総合生涯学習センター」	
〔資料〕	
市町村対象アンケート調査票	51～55

は じ め に

日頃から、地域の様々な社会教育活動を推進し、各地域の社会教育の振興・発展に寄与していただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、昨年１２月に「くまもと新時代教育大綱」及び「第４期熊本県教育振興基本計画」が策定されました。「自らの可能性を拓げ、未来を切り拓く熊本の人づくり」を基本理念とし、その実現に向け、５つの基本目標とその実現のための１０の基本的方向性を定められました。それらの中で、基本的方向性１として最初に挙げられているのが「家庭・地域の教育力向上」です。「こどもまんなか熊本」の実現に向けて、子供の成長を社会全体で支えることが強く求められている現在、今後社会教育の果たす役割は、これまで以上に大きなものになっていくのではないかと考えています。

また、「第４期熊本県教育基本振興計画」の基本的方向性⑧に「文化・スポーツの振興と生涯学習の推進」が示され、そのための取組事項として「学習機会と学習成果活用の充実」が位置づけられています。この中では、生涯のあらゆる場面において行う学習に対して、地域課題や県民の学習ニーズに応じた学習機会、学習情報の提供に努め、さらに、学習した成果を生かして、学校、地域で地域課題の解決やまちづくりにつながる活動を推進することが求められています。

そこで、本県では、県と市町村の連携事業である「地域の人づくり講座」をはじめ、生涯学習に携わる人材の資質・能力を高めるとともに、様々な関係機関や団体とのネットワークづくりを目的とした「生涯学習コーディネーター養成講座」、広く県民一般の方への学習機会の提供のための「くまもと県民カレッジ」等、様々な講座を実施して参りました。

本調査研究報告書では、市町村の生涯学習に係る現状をはじめ、地域の人づくり講座、県民カレッジ主催講座、他県における生涯学習講座の先進事例等についてまとめました。

本調査研究報告書が、各市町村等において活用され、生涯学習・社会教育に係る取組が尚一層充実するための一助となれば幸いです。

最後に、調査に御協力いただきました市町村教育委員会及び県内外関係者の皆様方から感謝申し上げます。

令和７年（２０２５年）４月

熊本県教育庁市町村教育局社会教育課長

福永 公彦

第1章 調査研究の概要

1 調査の目的

(1) 市町村支援

市町村における学習機会提供事業の充実等、生涯学習振興の支援のため、地域課題解決に向けた学習プログラムの開発及び県内の先進事例の情報収集を行い、市町村教育委員会をはじめとする関係機関に提供するとともに、次年度の事業に活用する。

(2) 市町村基礎情報収集

生涯学習推進及び社会教育行政に必要な基本的情報を収集し、社会教育課事業の基礎資料とする。

2 調査の対象

県内全市町村教育委員会（社会教育・生涯学習担当課：45市町村）、熊本市公立公民館（19館）、及び県外生涯学習センター

3 調査の実施期日

令和7年（2025年）1月27日（金）～令和7年（2025年）3月6日（木）

4 調査内容及び方法

(1) 県内市町村教育委員会、熊本市公立公民館に、次の点についてアンケートを依頼

○主催事業について

○学習成果活用を目的とした事業について

○生涯学習全般について

(2) 人材養成・研修について先進的な取組を行っている生涯学習センターを視察

【大阪市】

大阪市立総合生涯学習センター 「生涯学習まちづくり市民大学『いちょうカレッジ』」
「大阪市生涯学習推進員研修事業」

5 県内市町村・熊本市公立公民館調査回収率

対 象	依頼市町村数	回収市町村数	回収率 (%)
市（教育委員会）	14	14	100
町（教育委員会）	23	23	100
村（教育委員会）	8	8	100
熊本市公立公民館	19	19	100
全 体	64	64	100

第2章 市町村の生涯学習事業の現状及び考察

市町村の生涯学習に関する現状を把握するために、住民を対象とした講座内容や講座の実施回数、講座終了後の評価等について県内各市町村へアンケート調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。（数字は単位記載のものを除いた市町村数）

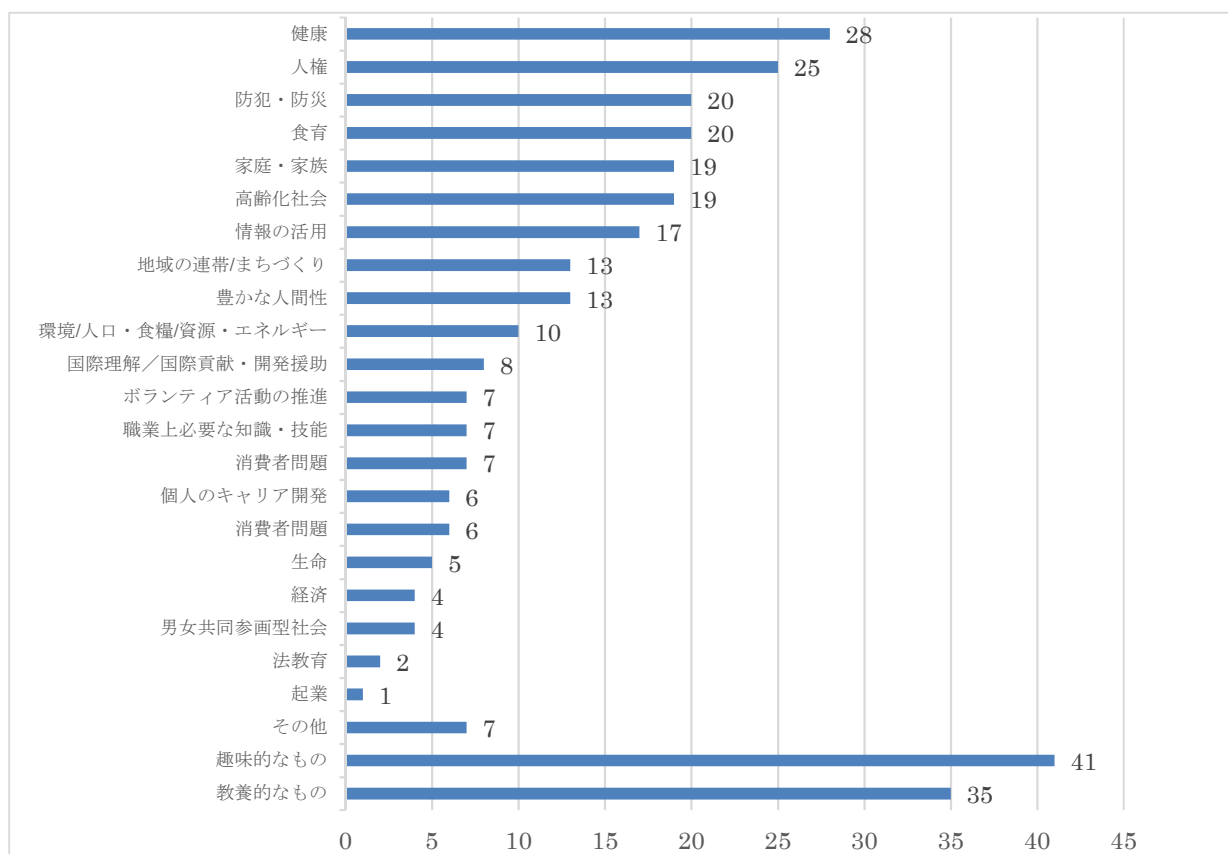
問1 本年度、貴市町村の教育委員会（公民館等も含む）主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。（予定も含む）

【表1：各市町村における講座の実施の有無】

	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
実施した	36	43	45	45	45
実施していない	9	2	0	0	0

本年度は、県内全ての市町村で講座を実施した。

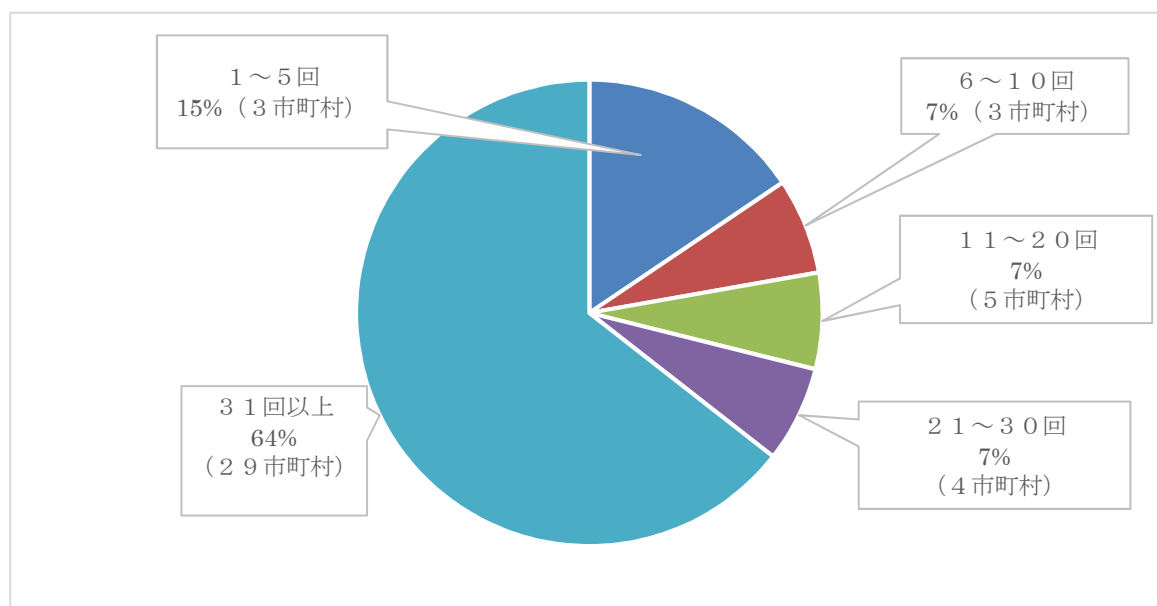
問2（1）本年度実施した（予定）講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕



学習領域は、「健康」が一番多く、次いで「人権」、「食育」、「防犯・防災」、「家庭・家族」、「高齢化社会」「情報の活用」の順である。

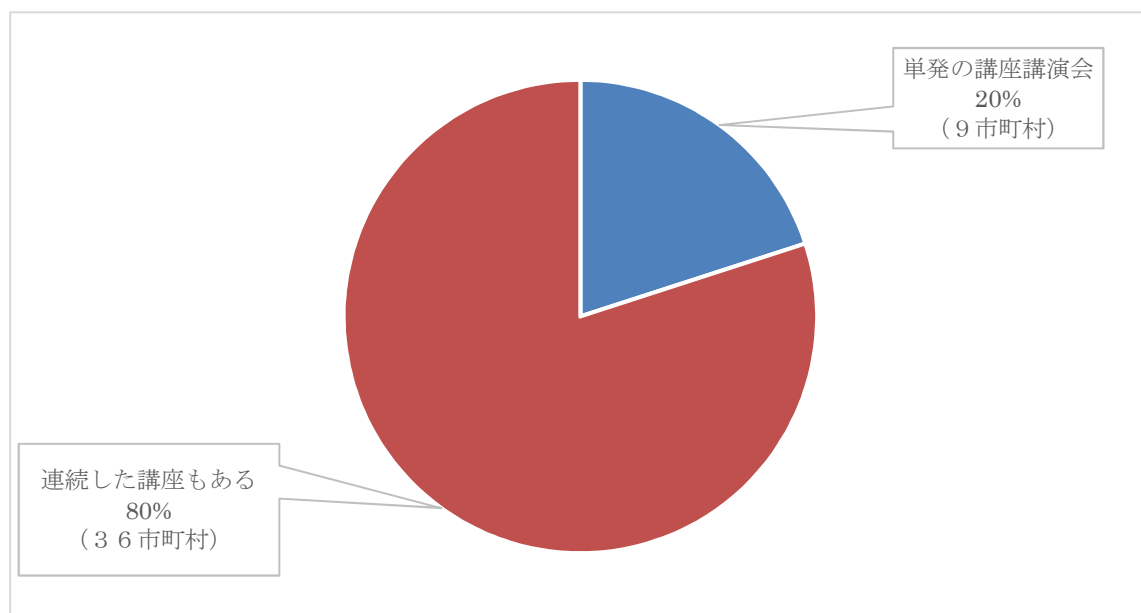
その他の領域としては、「地域人材育成」、「木育」、「山野草の観察会」、「スポーツ交流会」など地域の特性やニーズに応じた講座が実施されている。

(2) (1) の講座等の合計実施回数を選んでください（予定も含む）。



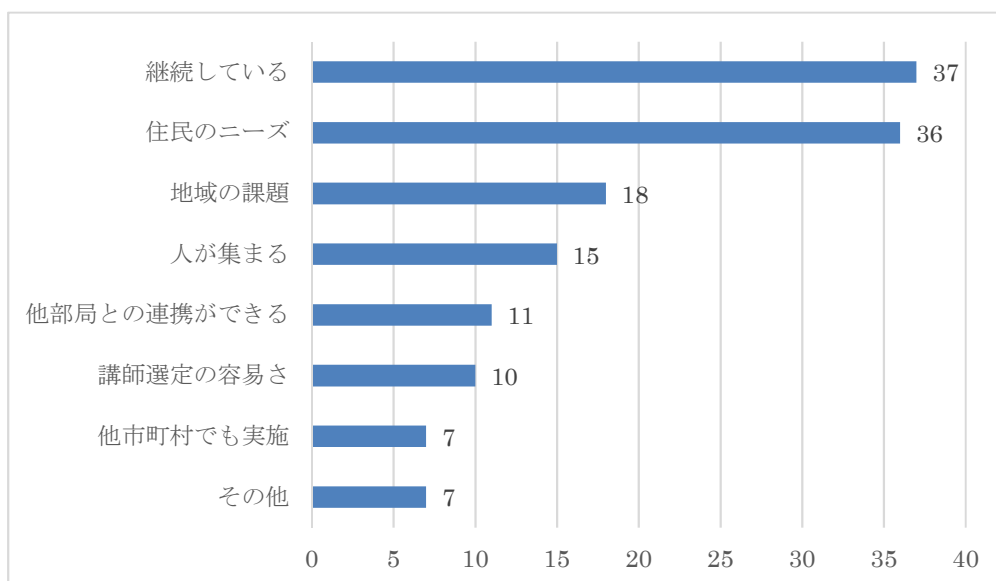
年間実施回数は、「31 回以上」が 29 市町村（64%）と一番多く、次いで「1～5 回」、「6 回～10 回」、「11 回～20 回」、「21～30 回」の順である。昨年度と同様に「31 回以上」が最も多いが、「21 回～30 回」、「11～20 回」が微減し、「6～10 回」は 8%増加している。実施回数が、年間 31 回以上という市町村が 6 割を超えている。

(3) (1) の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。



実施形態は「連続した講座」が 36 市町村（80%）、「単発のみの講座」が 9 市町村（20%）である。昨年度と比較すると、「単発のみの講座」が 7%増加、「連続した講座」が 7%減少している。

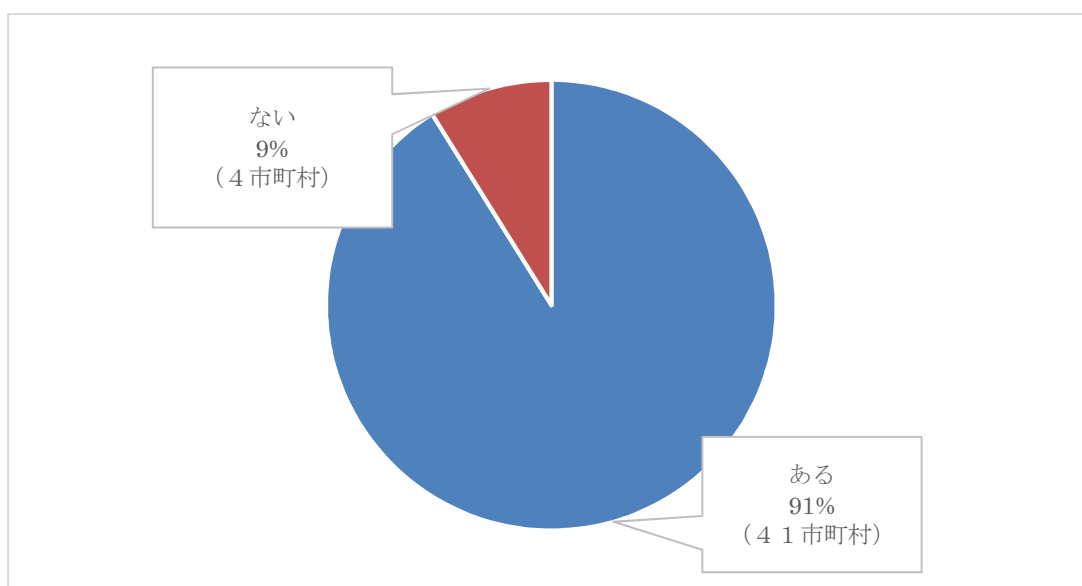
(4) (1) の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕



学習領域選定の理由は、「継続しているから」「住民のニーズが高いから」「地域の課題だから」「人が集まるから」「他部局との連携ができるから」の順である。昨年度に比べ、「地域の課題だから」は4市町村増加している。

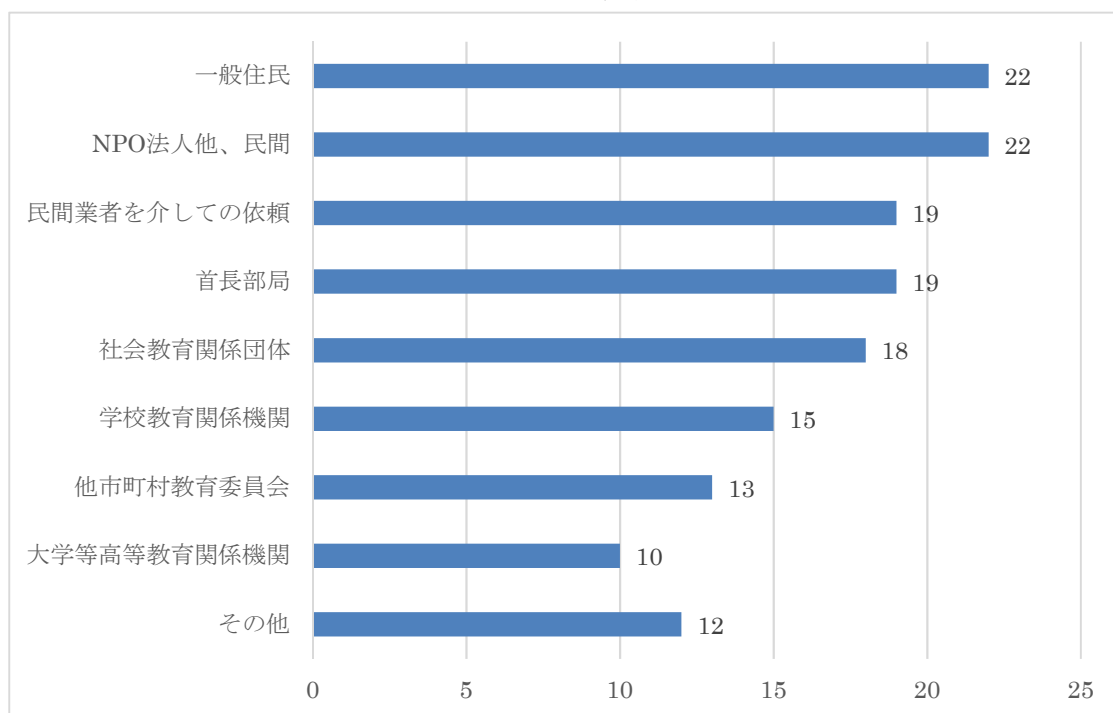
その他の理由としては、「連携協定を結んだ企業等からの要請」「関係市町の連携事業」「地域学の一環」等が挙げられている。

(5) (1) の講座を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関（構成員を含む）がありますか。



「連携・協力」を行った市町村は、41 市町村（91%）であった。昨年度比で7%増加している。

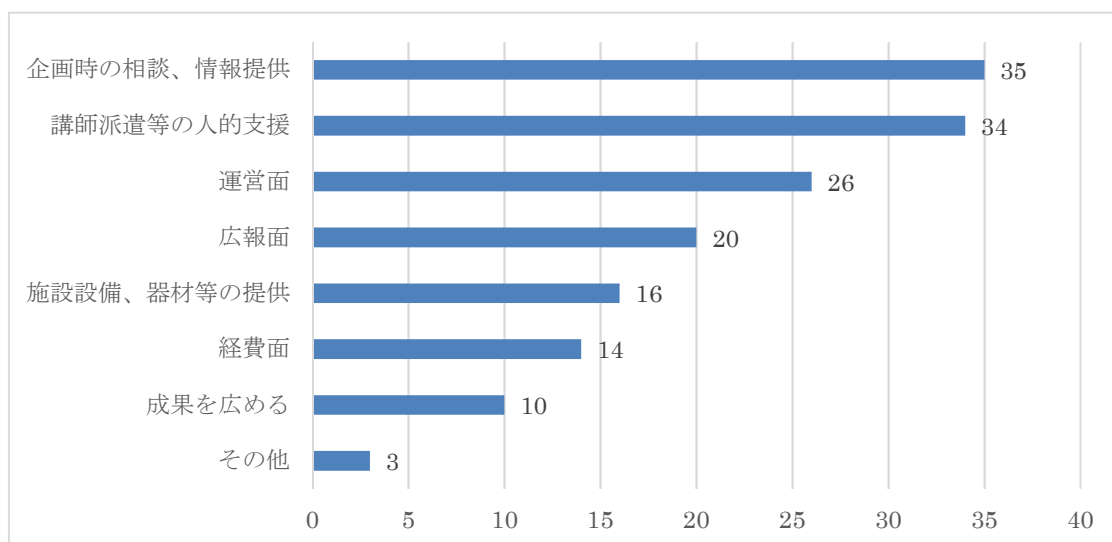
また、連携先は、どのような機関ですか。〔複数回答可〕



講座実施の連携先としては、「一般住民」「NPO法人他、民間」「民間業者を介しての依頼」「首長部局」が上位である。全体として、多くの機関と連携、協力して講座が実施されていることがわかる。

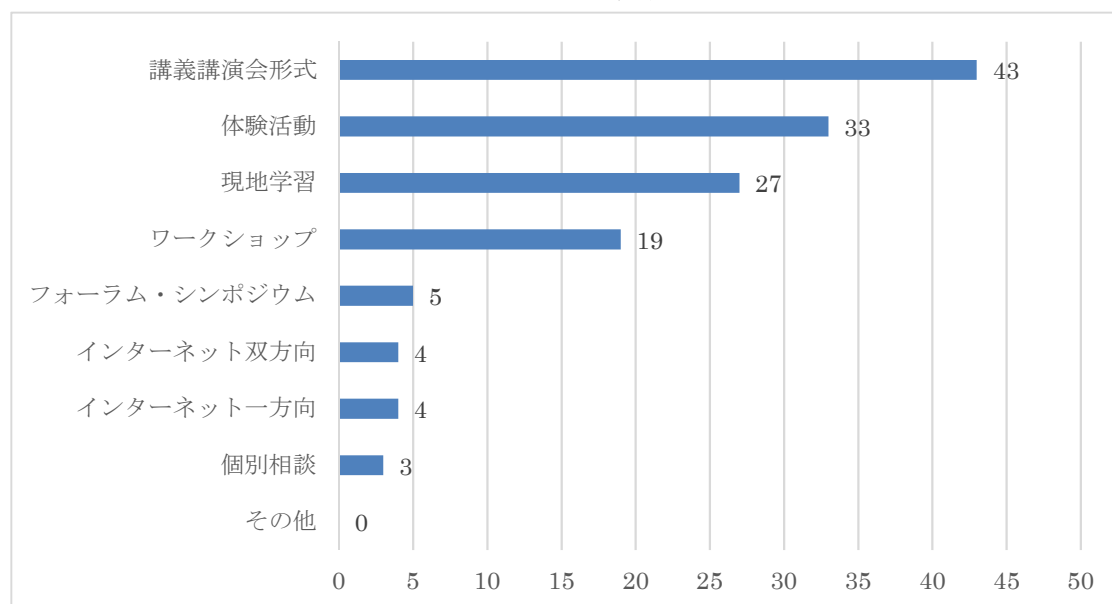
その他の連携先としては、「保育ソーシャルワーカー」、「童話作家」、「読書活動推進員」「医療機関」「熊本地方気象台」「ALT」などが挙げられている。

(6) (5) の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕



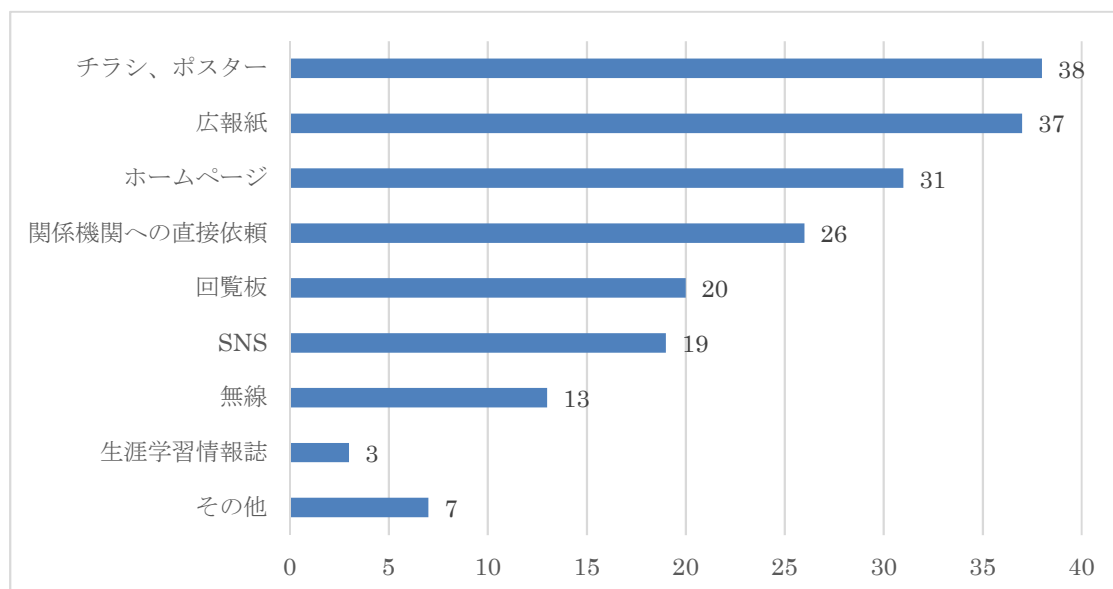
連携内容や場面については、「企画時の相談、情報提供」「講師派遣等の人的支援」「運営面」が上位である。企画の段階から関係機関と連携している市町村が多いことがわかる。

(7) (1) の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕



学習形態は、「講義・講演会形式」「体験活動」「現地学習」と「ワークショップ」の順である。昨年度と比較すると、「現地学習」が5市町村増加している。対面形式の講座が再開された後も「インターネット」活用を継続している市町村がある。

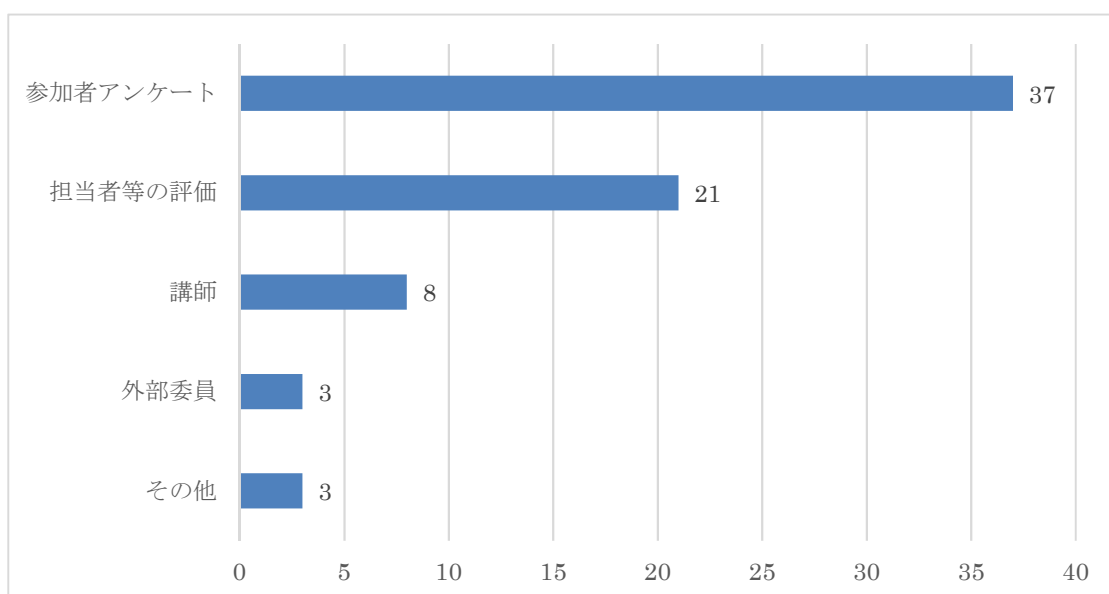
(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕



講座の広報手段は、「チラシ、ポスター配布」「広報紙掲載」「ホームページ掲載」「関係機関への直接依頼」が多い。昨年度と比較すると、「ホームページ掲載」(R5: 25件)「SNS」(R5: 11件)の増加が顕著である。

その他の方法としては、「CATV等有線放送」「地域新聞への掲載」「活動内容のパネル展示」「ラジオ放送」「回覧板の全戸配布」等の手段が挙げられている。

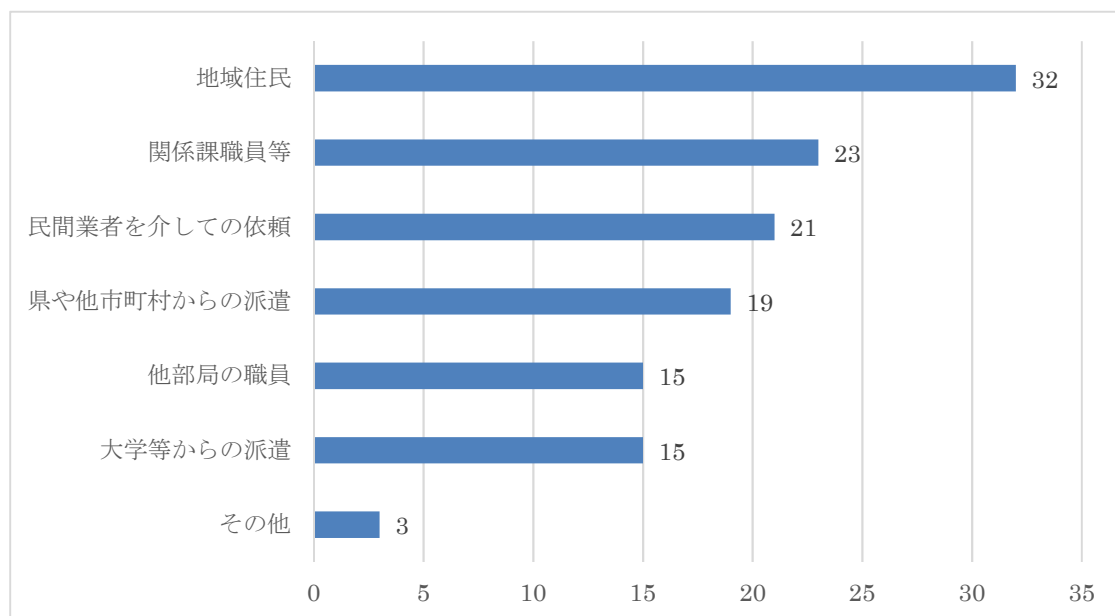
(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕



講座の評価方法については、9割の市町村が何らかの形で講座評価を行っており、昨年同様、「アンケート」による評価が最も多い。

その他としては、「関係役員での会合による評価」「講座日誌閲覧による評価」等が挙げられている。

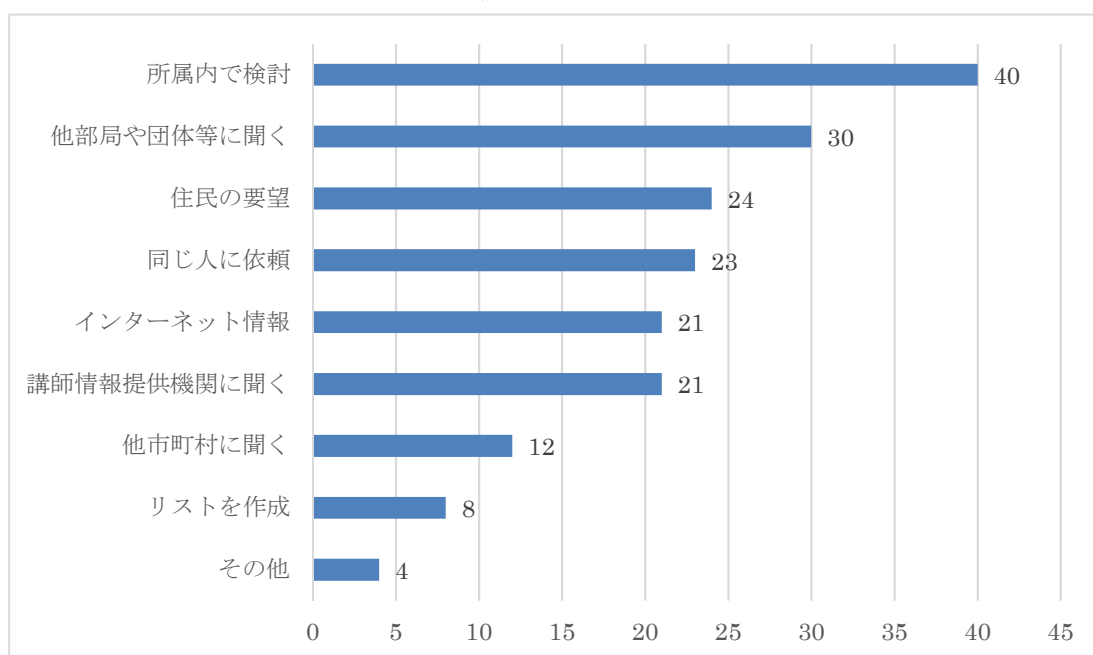
(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕



講座を務めた講師は、「地域住民」「関係課職員等」「民間業者を介しての依頼」の順である。

その他としては、「民間団体」「個人事業者」「町文化協会加入団体構成員」「青少年の家職員」「くまもと県民カレッジ認定講師」「公的機関」等が挙げられており、多様な連携が図られている。

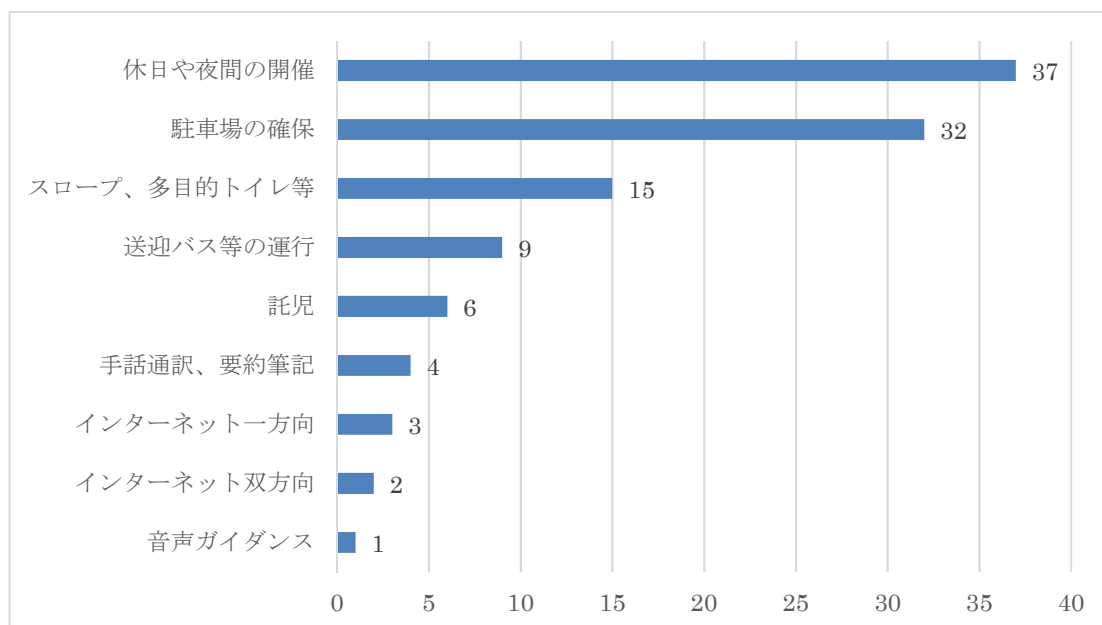
(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕



講師の情報源は、「所属内で検討」「他部局や団体等に聞く」「住民の要望」「同じ人に依頼」「インターネット情報」と「講師情報提供機関に聞く」の順である。

その他としては、「担当者のネットワーク」「新聞・雑誌等の情報」が挙げられている。

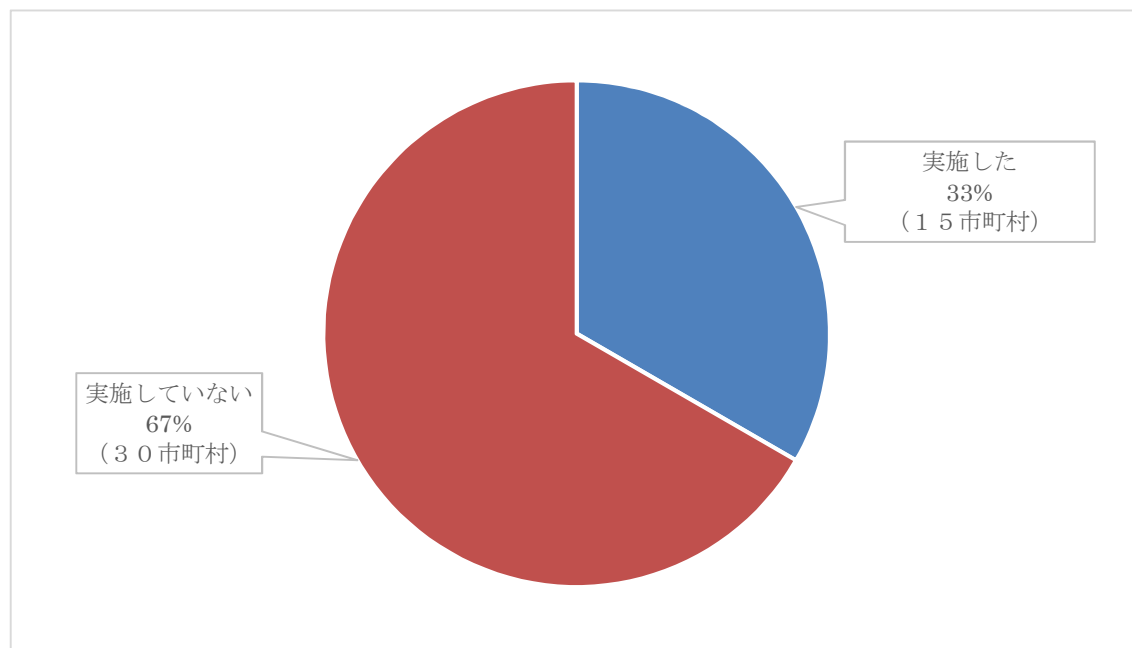
(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕



住民が参加しやすいように、「休日や夜間の開催」「駐車場の確保」「スロープ、多目的トイレの設置」等の支援が行われている。

その他としては、「講座の開催時刻をコミュニティバスの時刻に合わせている」「地区公民科で講座を開催」「オンラインでの申し込み」「公共施設の場所を提供」「受講費を抑える」等が挙げられている。

問3 学習成果活用を視野に入れた講座（人材育成や仲間づくり、仕組みづくり等）を実施しましたか（予定も含む）。



学習成果活用を視野に入れた講座を「実施した」市町村の割合は、15市町村（33%）である。昨年度と比較すると6%増加している。

次の表に示すのは、学習成果活用を視野に入れた講座の具体例である（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す）。

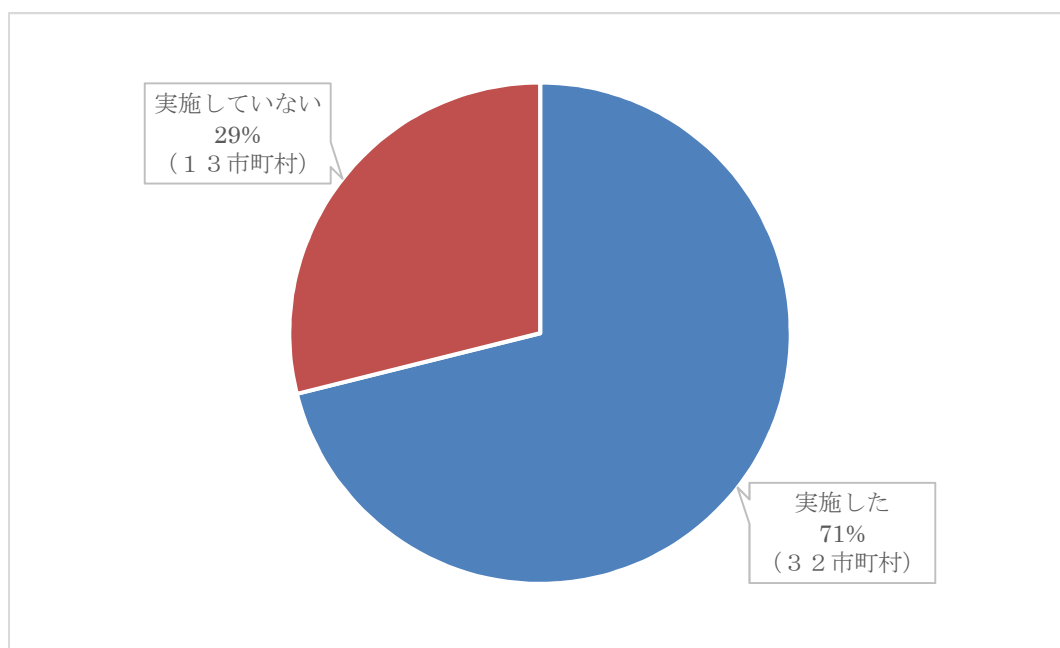
市町村等	講座名	内 容
荒尾市	手話体験 やってみよう手話	親子で手話講座に参加し、手話を理解し、親しみ、地域へと広げることをめざす。
	現代の地震に学ぶ	防災を事例によって学び、地域ぐるみで防災の輪を広げることをねらいとする。
天草市	新春まなびフェスタ	会の中で学習（練習）した成果を参加者の皆さまに見て頂く機会を設けた。
菊池市	キクロスカレッジ	地域人材の育成、マイスター認証登録及び活用。
宇土市	俳句を楽しむ会	公民館主催講座として、講師を招いて令和6年度に6回開催した。講座終了後も、参加者たちが自主講座として継続して活動しており、公民館として、期間を限定して会場の使用料の減免を行って支援している。
上天草市	地域の人づくり講座	次世代を含めた地域リーダーを発掘・育成し、地域の活性化を図る。1／3年目

宇城市	もっと知りたい三角西港	宇城市内の教職員を対象に世界遺産である三角西港の概要を知り、フィールドワークでさらに深め、講師を地域の観光ガイドに依頼した。なお、学校においては、その後、総合的な学習の授業を通して児童生徒にわが町の文化遺産を後世に受け継ぐための人材育成につなげている。
合志市	親の学びプログラム	親として学べる、親同士のつながりを作る「親の学びプログラム」を学習し、コーディネーターを育成した。
和水町	地域の人づくり講座	県の地域の人づくり講座を活用し、紙ヒコーキの作成、ルームスプレーづくりの基礎を学んだ。2／3年目
菊陽町	ジュニアリーダー養成講座	小学生から高校生を対象とした講座で、学校や地域のリーダーとして活躍できる人材を育成（野外体験活動、ボランティア活動、子ども会大会補助、主催講座講師補助など。）
	学生ボランティア養成講座	主催講座等の運営補助など、参加する小中学生のリーダーとして活躍できる人材の育成（KYT トレーニング指導、リスクマネジメント、レクリエーション指導等の研修。）
御船町	歴史文化講座	町内の歴史について現地学習を行った。その中で住職や博物館学芸員等と現地を回ることもあった。
嘉島町	手話講座	人権を考える町民の集いでの手話通訳。
	読み聞かせ講座	読み聞かせのコツを学ぶ。
益城町	公民館講座「そろばん」	そろばんを学んだ受講生に小学校のそろばん教室お手伝いを依頼する。
氷川町	ふれあい大学	高齢者が豊かに社会生活と積極的な生きがいを求めるために学習する講座。
津奈木町	たのしい絵本教室	講座内での読み聞かせ等を通し、保育園訪問や今後「おはなし会」の立ち上げを予定している。
中央公民館 (熊本市)	高校生によるスマホ教室	異世代交流事業（必由館高校のボランティア部の皆さんが、高齢者の質問にマースマンで答えていく講座。）
五福公民館 (熊本市)	歩く見る聞くフットパス	五福小5年生を講師に迎える。参加者と一緒に街を歩き、総合的な学習の時間で学んだ地域の歴史を伝える。
龍田公民館 (熊本市)	心に寄り添う傾聴	「傾聴」について基本的な技法を学ぶ講座。
託麻公民館 (熊本市)	切り絵に挑戦！	生涯学習自主講座の講師の先生と講座生と一緒に講師として参加した。
幸田公民館 (熊本市)	はじめての手話講座	資格取得につながり、仕事に役立つ講座。

秋津公民館 (熊本市)	ベビーソーイング	ベビースタイなど赤ちゃんが使うものをつくりしながら、参加した保護者同士の仲間づくりを行う。
清水公民館 (熊本市)	日本語教室ボランティア養成講座	当公民館で開催予定の日本語教室で、外国人に「分かりやすい日本語」を教えるボランティアを養成する。
大江公民館 (熊本市)	やさしい日本語	海外からの交流人口増加、また、高齢者や子ども、障害をもった方にも素早く情報が伝わるような丁寧な日本語を習得し、日常生活や災害発生時に活用する。
花園公民館 (熊本市)	初めてのジュニアダンス教室	地域で活躍するダンス講師を招き、ダンス未経験者向けのダンスを楽しむ講座。
北部公民館 (熊本市)	絵手紙講座	小学6年生を対象に公民館講座の講師と講座で学習している講座生が絵手紙の指導を行う。
河内公民館 (熊本市)	子育てサークル	毎月異なる内容で、子どもと親のスキンシップが図られている。また、小さい子どもをもつ親同士の交流の場ともなっている。
天明公民館 (熊本市)	地域の史跡歴史に関する講座	地域の神宮に関する歴史の学習を行い、地域の歴史の継承や地域人材の育成に繋げた。
富合公民館 (熊本市)	サバメシ、炊くべしボランティアリーダー養成講座	「サバイバル飯炊き」のサバメシ技術指導員養成講座として実施 親子でサバイバルご飯炊き教室の補助講師として関わってもらった。
城南公民館 (熊本市)	城南キッズダンス	計10回の小学生対象のダンス講座で、最終10回目を南区の生涯自主学習講座を含む団体が参加する「ふれあいコンサート」でパフォーマンスを披露する。
	3B リフレッシュ体操	3つの体操器具を用いた健康体操運動の活動成果を発表する。
	日本舞踊	日舞の練習の成果を発表する。
	着物着付け	着物着付け、帯の結び方等を学び、着付けた姿を披露して日本舞踊を発表する。
	宿題サポート	退職教職員や地域住民・高校生を見守り先生として、小学生の夏休みの宿題をサポートする。
植木公民館 (熊本市)	植木の史跡・名所の歴史を学べ2024(ボランティア養成講座)	植木の史跡・名所についての歴史的学びを通して、植木の良さを知っていただく。

回答状況から、地域で活躍する人材の育成やつながりづくりを視野に入れた講座を実施している市町村及び公民館が数多く見られた。

問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか（予定も含む）。



昨年度と比較すると、実施した市町村が2%増加している。

次は、実施した市町村の事業例である。（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。）

市町村等	事業名	内 容
八代市	キッズチャレンジ2024	アウトドアスクール、陶芸教室、宿泊体験（天候不良により中止）、親子体験を実施。
	小学生のためのプログラミング講座	Scratchというプログラミングソフトを使ったゲーム制作。
人吉市	校区公民館子ども講座	体操、囲碁、ダンス、琴、バドミントン、よさこい踊り、大正琴、折り紙、お菓子作りを実施。
	草木山川学校	自然環境を活用した野外体験活動。子どもたちに良質な驚きと感動を引き起こし、「生きる力」と「郷土愛」を育む。（令和6年7月「夏版」実施済み、令和7年3月「春版」実施予定）
荒尾市	夏休み子ども防災食講座	災害時の食糧事情や非常食を備えておくことの大切さを学ぶ
	親子ミニこいのぼりづくり	体験による学びを重視。この他に、かしわもちづくり・クロスワード体験
水俣市	みなまた未来ラボ	市内の中学生・高校生を対象に水俣市の現状や課題について、様々な分野から学び、グループワークを行う。その後、参加者は、こども議員として学びの成果発表や市に対する質問・提案を行う。

水俣市	童話教室	子どもたちに童話を聞くこと話すことの楽しさをもっと知ってもらえるように、毎月、テーマを決めて実施している。
	作童話ワークショップ	テーマを決めて、自ら物語を想像し、創作する機会を提供することで読書・創作活動の推進を図る。
	夏休み子ども教室	子どもの夏休み期間中に恐竜に関する子ども教室を実施した。
玉名市	【公民館】 食品サンプルのキーホルダーなどほか15件以上	モノづくりを中心とした参加型体験活動（高校生が講師となったキャリア教育も実践）。
	【博物館】 たんけん！博物館	博物館内を巡りながらクイズに答える。参加賞としてオリジナル缶バッジと解説シートを贈呈。
	【その他】出前授業	古代の玉名など学校から依頼があったテーマに沿って話す。
天草市	読書活動推進事業	図書館で親子で楽しめる木育ワークショップを実施。
	親子料理講座	親子で料理を作り、一緒に食する。
	親子ドローン講座	ドローンについて学び、実際に操縦する体験学習。
菊池市	キッズチャレンジクラブ	自分が住んでいる菊池の歴史・伝統・文化・名所・旧跡等について学習し、郷土の素晴らしさをさらに深めることにより地域に誇りを持つ。また、郷土愛を育む。
宇土市	青空教室（子供地域活動）	各地区公民館で、環境（リ・グラスアートづくり）や食育（いも収穫）、施設見学（動物園）といった様々な活動を行う。
宇城市	子供の楽校	子供たちが社会体験や自然体験などのさまざまな活動を経験しながら地域の人たちとの交流を図り、豊かな人間性やたくましく生きる力を育むことを目的にした子供向けの講座である。
	夏休み親子講座	夏休み期間中小学生を対象にした家族で参加できる講座で、今年度はバグチャーム、サンドアート、ウエルカムボードを作りを実施した。
合志市	親子でチャレンジ！消しゴムはんこ教室（小学生親子）	文字や図柄を専用の消しゴムに掘って作る「消しゴムはんこ」の親子体験講座を開催した。
長洲町	ユーチューブ教室「君もユーチューバーだ！」	小学校低学年を対象として、動画作成・編集の基礎を教える。
大津町	講師は高校生！木と触れ合う「木育」教室	小学生を対象とし、木育を通じて豊かな心を育む教室を行う。 ①実験コーナー②モノづくり体験（森のかけらお守り、コースター、木片を使った自由工作）

菊陽町	青少年育成事業など	①アクティブキッズキャンプ②図書館お泊り探検隊③野外体験活動 など
産山村	草原学習、食育学習等	草原学習：地元の環境のことについて学ぶ講話 食育学習：農業について学ぶ講話
南阿蘇村	夏休みイベント	夏休み期間中の毎週日曜日、子ども向けイベントの開催 ①コズミックカレッジ・宇宙教室 ②環境学習・万華鏡制作 ③貝殻クラフト ④映画上映会 ⑤こども料理教室
西原村	ふるさと塾	管内小・中学校の生徒を対象に、小学３年生から中学３年生にかけて、発達段階に応じた様々な体験活動を例年実施。
御船町	英会話教室	子どもを対象とした英会話教室で初めての人も体験しやすい内容を展開した。
嘉島町	パソコン教室	高校生も対象者に含め夜間開催。
	朗読コンクール	小学生を対象とした夏休みイベント。
益城町	K-POPと韓国語体験教室	K-POPダンスを教えて、そのよさや楽しさを体験させる。また、ダンス用語や日常使う韓国語を紹介する。
甲佐町	子ども講座	放課後児童クラブで「たこコプター」や「プラ板づくり」などの工作。
山都町	子ども茶道教室	夏休み期間中に小学生・中学生を対象とした茶道教室を実施。
氷川町	子ども人権教室	子ども一人ひとりの人権意識を高め、自尊感情を高められるようにする。
芦北町	子ども講座	町内の小中学生を対象に土曜や夏休み期間に、異年齢及び地域間交流ができる学習活動として、茶道、そろばん、フラダンス講座を実施。
津奈木町	つなぎ遊びの学校	町内の小・中学生を対象に、様々な活動を提供。（毎月、１回程度の活動を実施。）
錦町	English day camp	町ALTを講師に外国語でのコミュニケーションの楽しさを感じながら、日本と外国の文化の違いを知り国際感覚を育む。
あさぎり町	小麦粉から作るハンバーガー作り体験	小麦粉を練ってパンとハンバーグを手作りし、自分の理想のハンバーガーを作る単発体験講座。（小学生対象）
	３Ｄプリンタをつかってみよう	３Ｄプリンタの使い方を体験する講座デザイン、設計、出力の全３回構成。（小学生対象）
	銅鏡鑄造体験	銅鏡の小型の鋳型を用いた鑄造体験。（小学生対象）
湯前町	英会話教室	学校ALTを講師として、日常会話等の英会話を学ぶ。

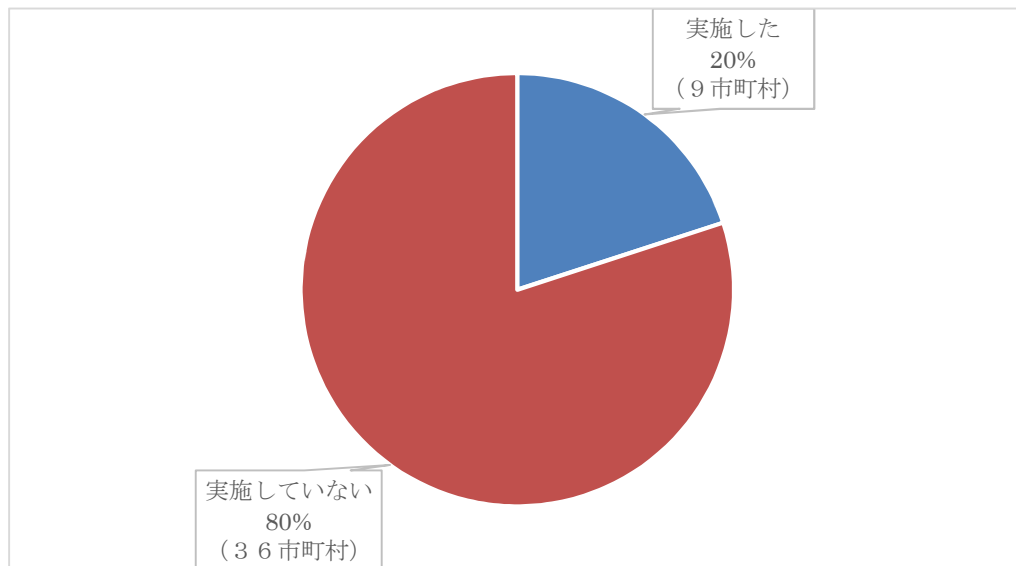
相良村	相良いけばな教室	年間12回のいけばなを通じて、花と親しみ、児童の健全な心の育成を図る。
山江村	山江村生涯学習講座	熊本県の地震と地学について、化石のレプリカ作り。
	子ども文化財探検隊	②ALTと一緒に日本遺産について学ぶ。
中央公民館 (熊本市)	はじめてのこども囲碁将棋	長期休暇を活用し、講座を実施した。保護者の関心も高く、家庭でも練習している子がいた。
五福公民館 (熊本市)	清水健太と童話を歌う	童話の朗読に合わせてBGMをつけたり、童話にメロディーをつけてうたったりする。音楽を親子で一緒に楽しみながら、子どもたちのコミュニケーション能力の陶冶を図る。
西部公民館 (熊本市)	こども硬筆	5カ月間継続して取り組む硬筆教室。
南部公民館 (熊本市)	親子クッキング	親子を対象とした講座。月に1度程度開催し、お菓子作りやケーキづくりを行う。
東部公民館 (熊本市)	ピザ職人になろう	大学生ボランティアとともに小学4～6年生を対象にペットボトルでピザを作る講座を実施した。
龍田公民館 (熊本市)	こども茶道	茶道に関する基本的な知識とお点前の作法。
託麻公民館 (熊本市)	プラネタリウム in TAKUMA	小学生を対象とした、計量検査所職員による重さの単位やはかりの歴史の講話と棒ばかりの作成活動。
	はかりのひみつ教えてあげる	秤のことを知り、自分で作った秤や珍しい秤を使って調べる。
	世界のカブトムシとクワガタ講座	日本や世界のカブトムシやクワガタ、飼育の仕方を知り、実際に観察する。
幸田公民館 (熊本市)	池坊華道教室	華道教室
	小原流花道教室みなみ	華道教室
	こども科学実験教	科学の面白さをものづくりを通して体験する。
	ヒップホップダンス体験	ヒップホップダンスの体験。
	トランポリン教室	トランポリンの体験。
秋津公民館 (熊本市)	小学生はじめての将棋	小学1年生から3年生の初心者を対象とした将棋教室【全3回】
清水公民館 (熊本市)	子どもお箏	お箏に親しみ、練習を重ね、習得して箏曲を披露する。

大江公民館 (熊本市)	こども消防訓練	小学3年生から6年生を対象に、熊本市中央消防署職員（20人程度）が講師となり、VR消火訓練、心肺蘇生、ロープワーク、消防自動車（7台設置）見学など体験学習を実施し、防災意識の向上を図った。
花園公民館 (熊本市)	初めてのジュニアダンス教室	地域で活躍するダンス講師を招き、ダンス未経験者向けのダンスを楽しむ講座
北部公民館 (熊本市)	ほくぶキッズ遊学塾	北部公民館管内の小学3年～6年生を対象に月1回、川の生き物探しや阿蘇キャンプ等の体験活動を実施しました。
飽田公民館 (熊本市)	跳び箱・跳び箱・マット、おはなし会、習字講座、絵画講座、ジュニアダンス	跳び箱・跳び箱・マット、読み聞かせ、習字、絵画、ジュニアダンス
河内公民館 (熊本市)	キッズスポーツ	運動が苦手な子どもなどを対象に、基礎的な運動を行う。
	かんたんクッキー作り	子どもだけでも作れるクッキー作りを行う。
天明公民館 (熊本市)	絵画、そろばん、英会話などの講座	夏休みや冬休み期間に、小学生向けに左記のような講座を実施。児童室が施設内にあるので連携して乳幼児向けの活動も実施した。
富合公民館 (熊本市)	楽しい英語教室	ネイティブ講師を招いたレクリエーションを通して英語に親しむ講座
	子ども舞踊	日本舞踊講師による年間講座(就学前から高校生までが参加)
城南公民館 (熊本市)	城南キッズダンス	計10回の小学生対象のダンス講座で、最終10回目を南区の生涯自主学習講座を含む団体が参加する「ふれあいコンサート」でパフォーマンスを披露する。
	あかちゃんといっしょふれあいサロン	あかちゃんから幼児まで、幅広い成育をテーマにお母さんと共に学ぶ。
	南区こどもチャレンジ公民館	様々なイベント実施に向けたこどもたちの自主的な取り組みをサポートしていく。
	世界の国から学ぼう	国際理解テーマを設定して親子で体験したり多文化を学ぶ。
	ラジオづくり	簡単な回路づくりからラジオを制作する。
	万華鏡づくり	環境問題に基づき、廃棄物再利用した万華鏡を制作する。
	宿題サポート	小学生の夏休みの宿題を地域の方や教職経験者等がサポートする。
	オーロラづくり	環境を見つめた視点でオーロラボックスを製作する。
	親子「足育」教室	熊本市文化スポーツ財団から講師招聘して、足の健康の大切さを学び、その運動のあり方を紹介してもらう。

城南公民館 (熊本市)	お弁当づくり	親子で協働して弁当を作り、料理の楽しさを知る。
	スイーツクッキング	親はこどもの料理活動を見守り、こどもたちが助け合ってスイーツ作りに望む。
	キッズ・トランポリン	幼児・小学部と分けて、トランポリンの楽しさと体づくりを体験する。
	竹とんぼづくり	国際竹とんぼ協会から講師招聘して、竹を細工してオリジナルの竹とんぼを製作の楽しさを体験して、実際に外で飛ばして楽しむ。
植木公民館 (熊本市)	お助け！夏休みの宿題・ 絵の部	小学校の夏休みの宿題・課題として出た絵を、この講座で組み仕上げる。本講座では、北区主催「ゴッホを探せ」への出品に向けて、北区シンボルフラワーである「ひまわり」を題材に取り上げて描く活動とする。

それぞれの地域にある資源や人材の活用、民間企業等と連携した講座が多く企画されている。講座内容としては、体験活動、ものづくり、スポーツや英語学習等、幅広い分野で子どもたちの興味を・関心を高めるような工夫をこらしたプログラムが企画されている。また、親子で参加する講座や子供たち自身が企画・運営する講座も見られた。

問5 様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施しましたか。



様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施した市町村が、9 市町村あり、昨年度よりも増加している。平成 26 年の障害者権利条約の批准や平成 28 年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、障がい者の生涯学習機会の整備・充実が求められていることから、障がいの有無にかかわらず誰もが参加でき、共に学ぶ場の提供が必要である。

次は、実施した市町村の事業例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	内 容
荒尾市	手話体験イベント(やってみよう手話)、パラスポーツ体験「卓球バレー」障がいがある人もない人も一緒に楽しむ活動を実施。
天草市	音楽を楽しむ活動、リーディングトラッカーを作ろう、電子図書館の使い方講座を実施。
菊池市	手話教室を実施し、手話で日常会話ができる優しいまちづくりを目指す。
玉東町	小学生を対象に、車いすバスケット体験や視覚・聴覚障害・肢体不自由についての学習会を開催。
大津町	楽しく学ぶ手話講座、キッズ手話講座を実施。
嘉島町	手話通訳を実施。
多良木町	手話講座を実施。
五福公民館 (熊本市)	手話講座を実施した。会場の提供等の支援を行った。
南部公民館 (熊本市)	モルックとボッチャ体験を実施。
東部公民館 (熊本市)	「障がい者サポーター養成講座」地域の障がい者相談センターの職員に小学４年生に向けて障害のある方への支援の方法をレクチャーしてもらった。
龍田公民館 (熊本市)	「はじめての手話」の講座を企画。手話の学習を通して、聴覚障がいに対する理解と支援について学んだ。
託麻公民館 (熊本市)	手話講座、障がい者の方の講演を実施。
幸田公民館 (熊本市)	車椅子の障がい者の講演会、手話講座を実施。
秋津公民館 (熊本市)	小４向けに、視覚障がい者による講話と介助・点字体験を実施。
清水公民館 (熊本市)	「親子でボッチャ」 ボッチャ競技の精神について学び、競技を体験する。
大江公民館 (熊本市)	初心者向け手話講座(全１０回)を実施した。
花園公民館 (熊本市)	人権映画上映会にて多様な児童が在籍する小学校のドキュメンタリー映画を上映した。
北部公民館 (熊本市)	手話講座、介助ボランティア養成講座等を実施しました。
河内公民館 (熊本市)	人権落語を開催し、お噺中に出てくる登場人物について、考える。

城南公民館 (熊本市)	聴覚障がいの方の理解・支援として「手話」講座を実施した。水俣病公害障がい者における人権教育・啓発に関する講演セミナーを実施した。
植木公民館 (熊本市)	突然の病気のため、両足と手の指を失いながらも、「筆師」として筆を執り続け作品を制作すると同時に、競技用義足を装着して、国内外のマラソン大会に挑戦している横田氏より、熊本城マラソンにも出場された講師の常に前向きな生き方に触れることで、自分の事と重ねながら考えていく機会とするとともに、お互いが助け合っていくことが大切であるという思いを深める。

回答状況から、手話について学ぶ講座や障がいの理解、車いすバスケットボール、ボッチャ等スポーツ体験を実施している市町村が多い

「障がい者サポーター養成講座」など、障がいに対する理解を深め、支援の在り方について学ぶ講座も実施されている。

問6 今年度実施した（または実施予定の）事業における工夫や取組について1つ御記入ください。

次は、記入のあった市町村の工夫や取組事例である。（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。）

市町村等	工 夫 ・ 取 組
人吉市	地元の高校の協力を得て、小学校4・5年生を対象とした「夏休み子ども学習会」を開催。4年生16名、5年生30名の児童が、わからないところを25名の高校生学習サポーターに教えてもらいながら楽しく学習に取り組んだ。また、命を守るための防災学習や食育のための調理実習も取り入れ、充実した学習会となった。
荒尾市	「ICT化の推進」多様な世代の参加を促すため、また、誰もが能動的に学べる環境づくりをめざし、ICT化を進めています。（ホームページの更新～情報発信・関連機関との連携）
水俣市	教養講座について、多くの人が参加できるよう、休日の土曜日の午前中に開催した。（公民館）
玉名市	開催回数を1～3回程度とコンパクトにし、忙しい人でも予定が立てやすいよう工夫した。 親子で参加又は、子どもだけで参加できる講座を増やし、キャリア教育に重点を置いた。
天草市	視覚障がい者等の読書バリアフリーを目的とした講座を実施一般の方への障がいとSDGsの取り組み理解へつながった。
山鹿市	生涯学習講座で実施した現地研修は、大変好評だった。
菊池市	子育て講座の動画配信 「いつでも、どこでも学べる講座」をテーマに多忙な子育て世代に届ける講座を実施。

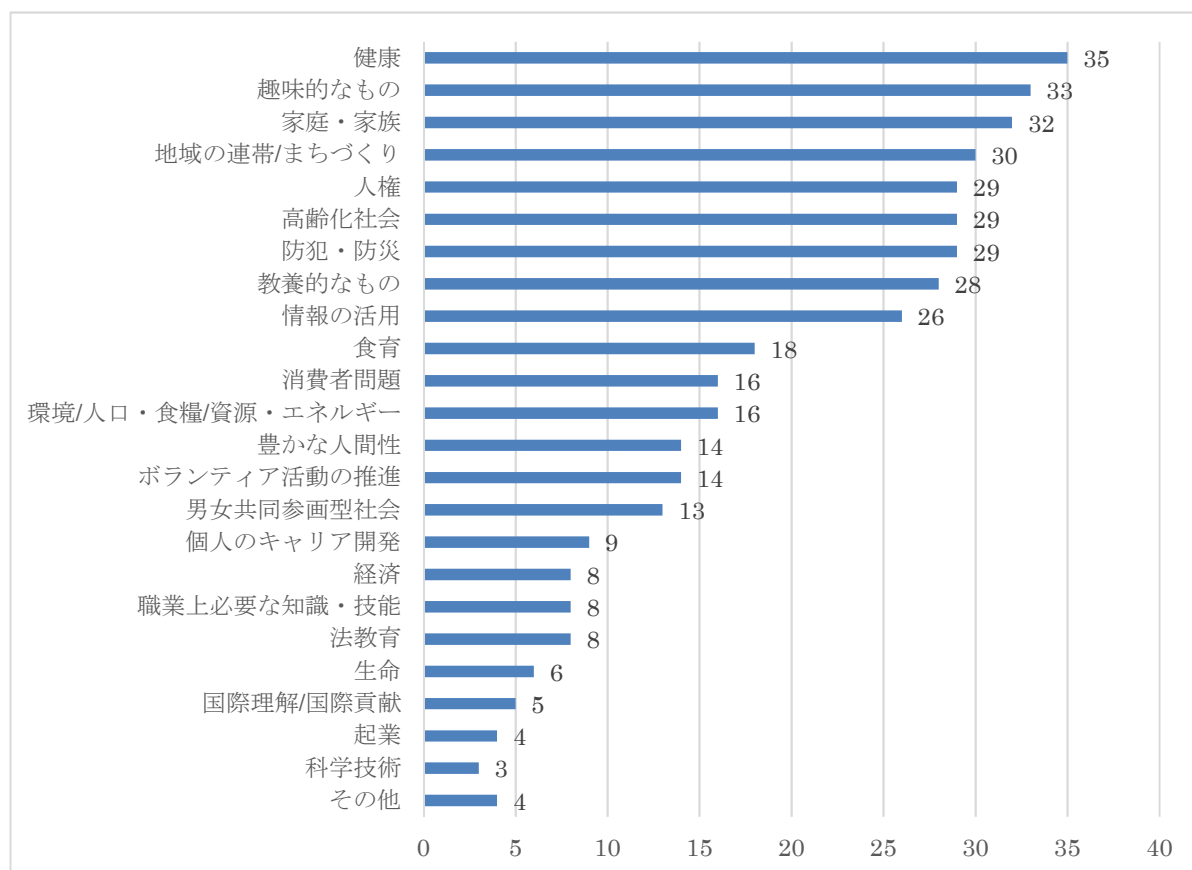
宇土市	今年度初めてパソコン・スマホ教室を公民館の講座に組み込んだ。個別相談とすることで、よりひとりひとりに合った対応をすることができた。
上天草市	今年度は県と連携し「地域の人づくり講座」を実施した。
宇城市	デジタル社会に対応するため、初心者スマホ講座、パソコンの基礎講座。 初心者スマホ講座には、地元の高校生をサポートとして依頼した。
合志市	国が進める「貯蓄から投資へ」の流れを理解し、小額投資非課税制度（NISA）などの投資を中心とした資産形成を学ぶ金融リテラシー講座を実施した。
玉東町	高齢者 e スポーツ講座の実施。
長洲町	昨今の個人による情報配信の意欲の高まりを受け、ニーズに合わせた動画作成・編集のための講座を開催した。
大津町	大手半導体企業の進出によって外国との距離が少しずつ近くなっていることを踏まえ、「台湾を知る（台湾講座）」「中国語講座」「季節の中華鍋を作ろう」「英会話教室」など国際交流を目的とした講座を取り入れている。
菊陽町	外国人の増加に伴い、国際講座（はじめての日本語教室、台湾を学ぼう、やさしい日本語の話し方教室、大人の英会話教室など）を開催。
南小国町	高齢者向けスマホ教室では、申込時に講義メニューを選択し、希望する講義を受けられるよう実施した。
小国町	地域の人づくり講座として「小国のたまり場プロジェクト」を実施。年3回の講座で、体験活動や郷土料理づくりなど、地域住民の要望でもある地域の人達が交流できる場として実施した。
西原村	昨年度から参加者アンケートを行い、ニーズの把握に努めた。今年度はアンケートの回答結果から、地域のダム工事現場見学会を実施し、参加者の関心度・満足度の高い学習機会を提供できた。
御船町	新規：英会話教室（大人・子ども向け）・歴史講座（中級）・日本舞踊 英会話教室は試験的に短期間（2ヶ月間）で行ったが、受講生より長期的な講座を望む声があったことから次回の継続の参考となった。
嘉島町	学習成果を地域学校協働活動事業や読み聞かせボランティアで活かし、講座開講式でのデモンストレーションや文化祭で発表頂いている。
益城町	より多くの人に受講していただくため、休日に開催する講座を企画した。
甲佐町	参加者のニーズや高齢化を鑑み、自治公民館等で少人数の出前講座の開催に力を入れた。
氷川町	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、Web講座の実施。
芦北町	高齢者向けに単発型のスマホ講座を開講。内容としては、スマートフォンの機能、LINEを中心に実施。
錦町	英検の受験対策で実施した錦未来塾は、受験者及び合格率が前年度をはるかに上回る成果となった。

湯前町	今年度、新規で開設した「生涯学習特別講座」では、他の生涯学習講座とは異なり、不定期で様々な講座を開催し、その都度受講者の募集を行った。他の講座と比べ、受講者数も多く、継続してほしいという声が多く上がった講座であった。（主な講座の内容は、樹木の剪定教室など）
山江村	コロナ禍の中で生じた課題を解決できるような講座を実施。
球磨村	新規講座の開設。
苓北町	地域の歴史への関心をさらに高めてもらうための歴史講演会を夜間に開催。地元講師及び受講者にとって参加しやすく好評である。
中央公民館 (熊本市)	高校生のボランティアによる高齢者対象のスマホ教室を主催講座として実施。孫世代の高校生による指導は、受講者の琴線に触れるやり取りで学習の意欲も高まり、異世代間交流事業としても大いに成果を挙げた。
五福公民館 (熊本市)	五福スマホ悩み教えあいサロンでは、スマホの悩みを持つ高齢者と五福担当校区内にあるボランティアの機会を求める第一高校生をつなぎ、世代間交流を行う場を設定した。目的は悩みの解決だが、日常的に話すことの少ない見知らぬ他世代の相手とのコミュニケーションを行うことで、相互理解が進み、思いやりやさしさに包まれたかかわりが生まれていた。当初の悩みを解決するという目的以上のものをそれぞれ持ち帰っていただくことができた。
西部公民館 (熊本市)	当公民館の管轄地域における歴史的なものを取り上げたいということで、「竹崎公園」の竹崎順子をきっかけにして、歴史講座を展開。新規に開設したものだが、地元につわる話ということで、より身近に誇らしく受講していただくことができた。
南部公民館 (熊本市)	「スマホで始めよう！災害の備え」の講座では、スマホの操作基本的な方法を学ぶこともできるのと同時に、災害についてのアプリや情報の検索方法なども学ぶことができた。
東部公民館 (熊本市)	公民館にある避難所の道具を使い、防災食を作ったり、テントを設営したりして、1泊2日の防災キャンプを行い、防災意識の向上を図った。
龍田公民館 (熊本市)	行政書士による「老いと向き合うヒント」講座を2月に実施予定。孤独死などの社会的課題に対応したもの。
託麻公民館 (熊本市)	災害のことを考えてほしいので、気軽に参加できる講座やロールプレイングゲームを取り入れた講座を行った。
幸田公民館 (熊本市)	公民館とまちづくり班で協力し、幸田まちづくりサロン（まちづくりについて考える会議）を開き、10月に幸田ランド（公園でわくわくするイベント）を開催し、こわれにくいしゃぼん玉作り、射的、デスクゴルフ、逃走中、ストラックアウト、水鉄砲対決などの家族連れ等約600人の参加があり盛況だった。令和7年度も10月に開催予定。
秋津公民館 (熊本市)	ナイストライやインターンシップにきた中高生が、地域の高齢者にスマートフォンの使い方を教える講座を実施。

清水公民館 (熊本市)	「日本語教室」 熊本市国際振興事業団とボランティアの支援を得て、外国人に分かりやすい日本語を学んでもらう。
大江公民館 (熊本市)	幅広い年代の皆様に公民館を使用いただけるように、高校生や大学生ボランティアを活用した、子ども・高齢者向けに学習支援や情報処理学習を実施するとともに、世代間交流の促進を図った。
花園公民館 (熊本市)	スマホ講座にて、講師を複数人招聘し、グループに分かれて講座を実施した。1人1人の悩みにグループの参加者と講師と共に考えていくことで、参加者による主体的な学びを推進することができた。
北部公民館 (熊本市)	熊本市では、「手話」の普及に力を入れているので、本館でも「手話講座」を実施し、普及の一助とした。
飽田公民館 (熊本市)	利用者へのアンケートから希望が多かった料理講座を行うにあたり、男性向け料理は食育改善推進員がすでに実施していることから、若い方、保護者世代に向けて肥後野菜を使った親子恵方巻作りを実施した。
河内公民館 (熊本市)	体験農園でのジャガイモの栽培等の講座は、家族単位での参加としている。親子で参加される方が多く、子どもへ農業体験をさせたい親のニーズとマッチしているようである。
富合公民館 (熊本市)	手話入門講座を南区の代表館として夜間講座として10回実施 小学1年生～高齢の方までの参加があり、大好評のうちに終えることができた。
城南公民館 (熊本市)	東京大手菓子会社から「健康咀嚼指導士」講師を招聘して、咀嚼の大切さと、たくさん噛むことで健康寿命を伸ばす食生活の意識づけを行った。講座ではガムを噛むことを通して咀嚼活動につなげ、特にシニアの方の日常の咀嚼状況を噛む回数で色が変わる特殊ガムを使用して実体験・自己評価を行い、日常生活に生かすようにした。
植木公民館 (熊本市)	こどもたちや子育て世代に楽しんでもらえる演奏会を開催している吹奏楽団（熊本ファミリーウインドアンサンブルc o c c o r o）の演奏会。こどもから大人まで楽しめる曲目を聴いて楽しむとともに、楽器それぞれの特徴を知り、親子で触れ合いながら吹奏楽や楽器に興味を持ってもらう。

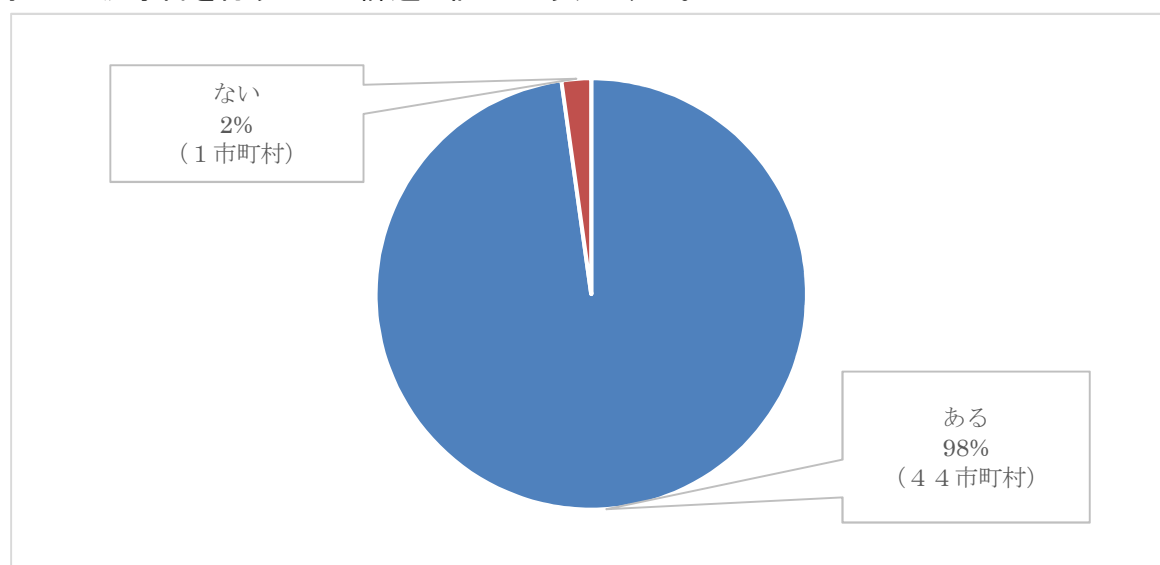
回答状況から、時代の変化やニーズに応じた講座内容（デジタルデバイドの解消や多文化共生）、受講生が参加しやすい開催方法（時間や場所の設定）、他部局や他団体との連携等、様々な工夫や取組を行っていることがわかる。

問7 住民への提供が必要だと考えられる学習についてご記入ください。[複数回答可]



「健康」「趣味的なもの」「家庭・家族」「地域の連帯/まちづくり」が上位となっている。昨年度と比べ「地域の連帯/まちづくり」が6市町村増えており地域課題に応じた様々な学習領域の講座の提供が必要だと感じていることがわかる。

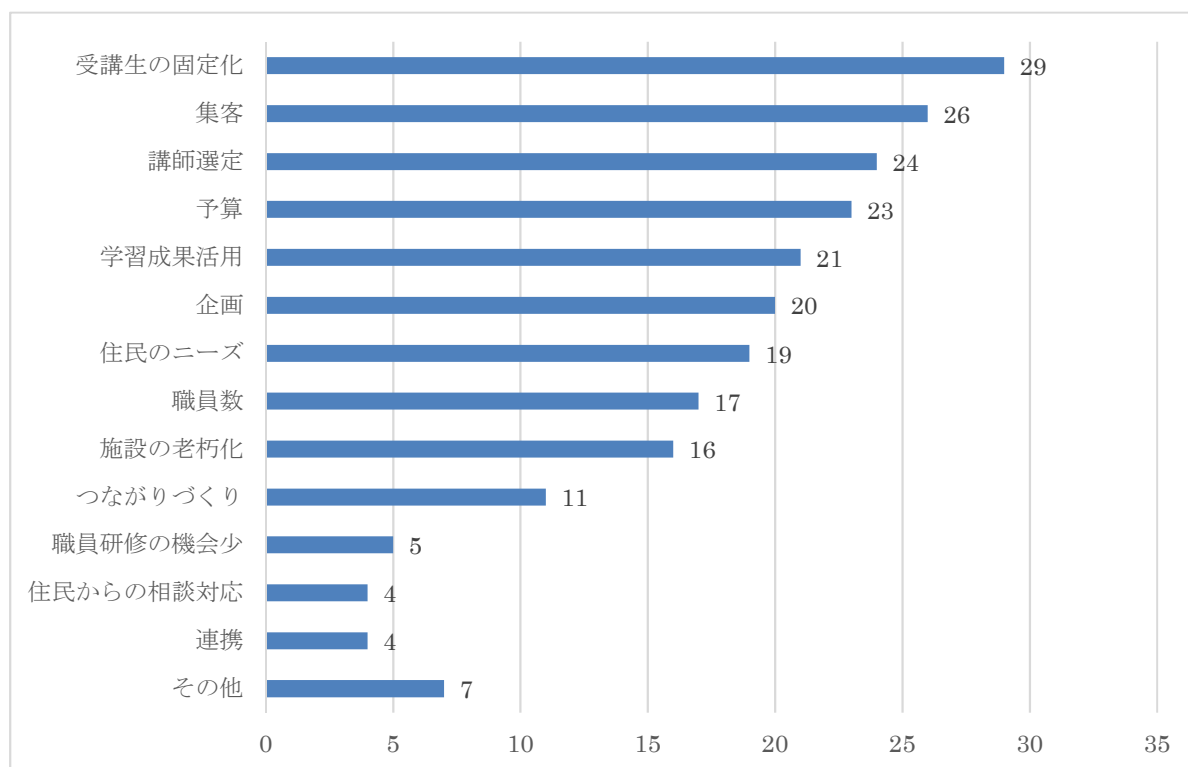
問8 生涯学習を行う上での課題や悩みはありますか。



多くの市町村が課題や悩みを持ちながら、よりよい学習機会の提供のために生涯学習を推進していることがわかる。

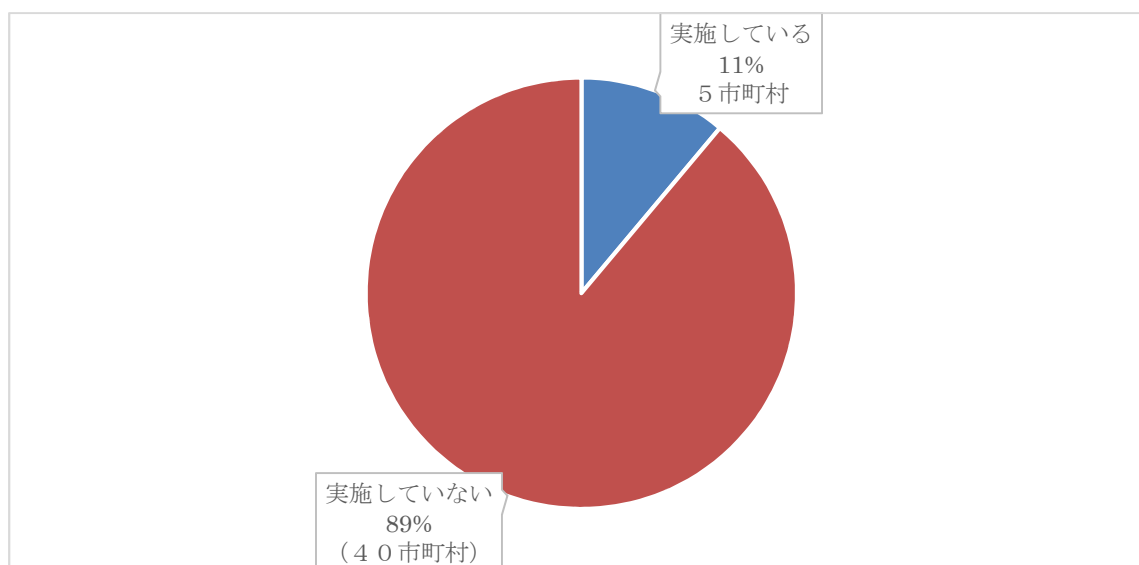
問9 問8で「ある」と答えた方にお聞きします。課題や悩みの内容を教えてください。

[複数回答可]



生涯学習を推進する上での課題や悩みとしては、「受講生の固定化」「集客」「講師選定」「予算」「学習成果活用」が上位である。例年、「受講生の固定化」は、多くの自治体が課題ととらえていることが分かる。昨年度に比べ、「住民のニーズ」が5市町村、「企画」が4市町村減少している。

問10 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。



社会教育指導員を対象とした研修を実施している市町村数は5市町村ある。年間1～9回実施しており、外部研修を活用して研修を行ったり、地域ごとの連絡会議等の機会を利用して研修を行ったりと、地域の実情に応じて実施している。

第3章 県と市町村の連携事業

1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告

【事例1】地域学校協働活動の人材育成を目的とした講座（合志市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域住民による学校支援活動、児童生徒による地域行事への参加や伝統芸能伝承、祭りや運動会をとおした交流などが行われているが、学校間や地域間で取組に差がある。 ○地域と学校をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員の中には、学校や地域での認知度の低さに悩んでいる方もいる。



事 業 目 標
学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員や担当職員の育成を図り、本市教育委員会の最終目標である「子どもたちが合志市に愛着と誇りを持ち、地域に貢献したいと考える人材を育てる」ことにつなげる。



講 座 企 画			
テーマ	合志市に愛着と誇りをもつ 未来の人材を育てよう ～みんなで進める わがまちの地域学校協働活動～		
講座目標	近隣校区の地域学校協働活動推進員や学校関係者が集まり、地域学校協働活動の基礎講座と県内モデル地域の実践例から、課題解決のヒントを得る。		
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員、学校管理職、地域連携担当職員等とし、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。		
回数	演題・内容		講師
1	演題	合志市における地域学校協働活動の推進に向けて (西合志校区)	氷川町教育委員会 統括的な地域学校協働活動推進員 古閑 由美 氷川町教育委員会 学校教育課審議員兼指導主事 平田 裕子 県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	地域学校協働活動を推進する上での悩みや課題について情報交換し、その解決方法について県内モデル地域の事例から学ぶ。	
2	演題	合志市における地域学校協働活動の推進に向けて (合志校区)	天草市地域学校協働活動 統括コーディネーター 向 博俊 県社会教育課 主幹 桑原 秀明
	内容	地域学校協働活動を推進する上での悩みや課題について情報交換し、その解決方法について県内モデル地域の事例から学ぶ。	

2 2年次の計画

講座企画			
テーマ		合志市に愛着と誇りをもつ 未来の人材を育てよう【2年次】 ～みんなで進める わがまちの地域学校協働活動～	
講座目標		近隣校区の地域学校協働活動推進員や学校関係者が集まり、地域学校協働活動の広報活動の技術を習得し、地域へ発信する。	
方法		○参加者が主体的に参加できるワークショップを取り入れる。 ○中学校区ごとに作品を作成し発表会を開催する。	
回数		演題・内容	講師
1	演題	地域学校協働活動の認知度アップ作戦 ～みんなの目にとまるチラシを作成しようⅠ～	合志マンガミュージアム 職員 安在 渉
	内容	地域学校協働活動と推進員の活動を知らせる広報紙(チラシ)の作成手順や方法等を知る。	
2	演題	地域学校協働活動の認知度アップ作戦 ～みんなの目にとまるチラシを作成しようⅡ～	
	内容	地域学校協働活動と推進員の活動を知らせる広報紙(チラシ)における効果的なレイアウトや色使いを学ぶ。	
3	演題	地域学校協働活動の認知度アップ作戦 ～完成チラシの発表会をしよう～	
	内容	地域学校協働活動と推進員の活動を知らせる広報紙(チラシ)の完成と作品発表会をする。	

3 3年次の計画

講座企画			
テーマ		合志市に愛着と誇りをもつ 未来の人材を育てよう【3年次】 ～みんなで進める わがまちの地域学校協働活動～	
講座目標		近隣校区の地域学校協働活動推進員や学校関係者が集まり、地域学校協働活動の広報活動の技術を習得し、地域へ発信する。	
方法		○受講対象者は、地域学校協働活動推進員、学校管理職、地域連携担当職員等とし、講義形式と実技（写真撮影）を織り交ぜて行う。	
回数		演題・内容	講師
1	演題	地域学校協働活動の認知度アップ作戦 ～効果的な記録（写真撮影）のスキルを学ぼう～	ハウルアップ代表 合志市クリエイタ塾講師 新村 真功
	内容	地域学校協働活動の広報のための効果的な写真の撮影の仕方や活用法について学ぶ。	
2	演題	地域学校協働活動の認知度アップ作戦 ～効果的な記録（写真撮影）のスキルを学ぼう～	
	内容	地域学校協働活動の広報のための効果的な写真の撮影の仕方（学校行事の写真撮影）について学ぶ。	



3年間の成果と課題を踏まえ、各中学校区で行われた地域学校協働活動について合志市全域で共有し、地域学校協働活動推進員を中心に活動の周知や校区を越えた連携等、市全体での活動促進を目指す。

4 3年目の講座の実際

【第1回】

地域学校協働活動の認知度を上げることを目的に、広報のための効果的な写真撮影の仕方について講座を行った。専門的知識とスキルをもつ地元の方を講師としてお招きすることができた。講師からは、本格的なデジタル一眼レフカメラではなくても、多くの人が所持している一般的なスマホのカメラも高い機能を備えていることを説明いただいた。その後、受講者も自分のスマホのカメラを活用しながら、写真撮影のための基礎知識やカメラの操作法について実践的に学習が進められた。



写真撮影のスキルについて学ぶ参加者

【第2回】

前回学んだ知識や技術を振り返りながら、運動会や文化祭、遠足等のそれぞれの学校行事に合わせたカメラの設定や撮影の仕方について詳しく説明をしていただいた。受講者も自分のスマホのカメラを使い、実際に写真を撮影しながら、終始なごやかな雰囲気の中で学習に取り組んでいた。また、アルバムやスライドショーとしてまとめて広報に活用するためにも、学校の1年を記録するというストーリーを意識しながら写真を撮影することの大切さや「写真で何を伝えたいか」「そのためにどう撮るか」等、目的をはっきりさせて撮影を行うことについて講師からアドバイスがあった。



講師の説明を受け、カメラを操作する参加者

5 3年目の成果と課題

【成果】

実践的な写真撮影の知識と技術を学ぶことができ、今後の周知・啓発のためのアイデアが広がった。今年度も、地域学校協働活動推進員と学校職員が共に受講することができ、交流を深めることができた。

【課題】

受講者が固定化してしまっていたので、今後は、地域学校協働活動推進員、学校関係者以外の人たちに周知を強化していく必要がある。



撮影した写真についての相互評価や講師へ質問をする様子

6 3年目以降の展開

学校関係者や推進員以外の地域の方々との連携・協働を視野に入れながら、活動の啓発、関係者の理解促進やスキルアップにつながるような講座を計画する。

【事例2】生涯学習・生きがいづくりの場としての「たまり場」づくりを目的とした講座（小国町）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域の活性化を目的とした、地域の人材発掘及び人材活用が不十分である。 ○公民館をつどいの場とするコミュニティの形成が必要である。



事 業 目 標
全世代の地域住民が気軽集える、生涯学習・生きがいづくりの場としての「たまり場」づくりを目指し、将来的には地域の人材発掘・人材活用のベースとなる場として地域活性化につなげる。



講 座 企 画			
テーマ		小国のたまり場プロジェクト ～「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」場所づくり～	
講座目標		誰でも気軽に集い、創作活動、情報交換、相談、健康づくりなど、様々な活動が自由に行えるたまり場づくりを目指す。	
方法		○地域の資源を生かした講座を行う。（坂本善三美術館・小国杉端材等） ○つながりづくりとイメージづくりのため、実践活動を多く取り入れる。	
回数		演題・内容	講師
1	演題	「人生＝表現」 ～自分の楽しみを大事に生きる～	小国町教育委員会 坂本善三美術館 学芸員 山下 弘子
	内容	「Over 50で楽しむ善三展」を鑑賞し、自分の生活の中で楽しみを見出しながら豊かに人生を送っている人々について知る。	
2	演題	小国のたまり場プロジェクト ～たまり場でやりたいことを考える～	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」たまり場づくりを目指し、イメージや活動内容等についてアイデアを出し合う。	
3	演題	とりあえず楽しいものづくり① ～端切れを使った裂き織づくり～	染織作家 増野 奈古
	内容	不要なものを再生し、新しい価値を生み出す「裂き織」を体験し、たまり場で楽しく活動する意欲を高める。	
4	演題	とりあえず楽しいものづくり② ～地域の端材を使った積み木づくり～	かける木工舎 當房 こず枝
	内容	地域の資源である木材の端材を利用再生する「積み木づくり」を体験し、たまり場で楽しく活動する意欲を高める。	
5	演題	小国のたまり場プロジェクト ～持続可能な活動に向けて～	美術家・地域学校協働活動 推進員 坂崎 隆一
	内容	持続可能な活動にしていけるために、今後の計画や活動内容等について考える。	

2 2年次の計画

講座企画			
テーマ		小国のたまり場プロジェクト ～「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」場所づくり～	
講座目標		誰でも気軽に集い、創作活動、情報交換、相談、健康づくりなど、様々な活動が自由に行えるたまり場づくりを目指す。	
方法		○地域の資源を生かした講座を行う。(裂き織・小国杉端材・郷土料理等) ○つながりづくりや仲間づくり、たまり場のイメージづくりのため、実践活動を多く行う。	
回数		演題・内容	講師
1	演題	持続可能なたまり場を目指して たまり場ブランドの裂き織づくり	染織作家 増野 奈古
	内容	不要になった布を裂いて作る「裂き織」を体験し、裂き織でたまり場ブランドの商品づくりを目指す。	
2	演題	持続可能なたまり場を目指して たまり場ブランドの積み木づくり	かける木工舎 當房 こず枝
	内容	小国杉の端材を使って積み木を作り、たまり場ブランドの商品化を目指す。	
3	演題	助成金を申請しよう(計画づくり)	美術家・地域学校協働活動 推進員 坂崎 隆一
	内容	たまり場が継続的に活動できるよう、民間の助成に応募するための活動計画を作ろう。	
4	演題	助成金を申請しよう(申請書づくり)	坂本善三美術館学芸員 山下 弘子
	内容	たまり場が継続的に活動できるよう、民間の助成に応募するための申請書を作る。	
5	演題	みんなで作って食べよう会 ～郷土料理で減塩～	小国町民課・栄養士 佐藤 久美子
	内容	みんなで郷土料理を作ったり、減塩について学んだりすることから、たまり場で楽しく活動する意欲を高める。	

3 3年次の計画

講座企画			
テーマ	小国のたまり場プロジェクト ～「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」場所づくり～		
講座目標	誰でも気軽に集い、創作活動、情報交換、相談、健康づくりなど、様々な活動が自由に行えるたまり場づくりを目指す。		
方法	○地域の資源を生かした講座を行う。(裂き織・小国杉端材・郷土料理等) ○つながりづくりや仲間づくり、たまり場のイメージづくりのため、実践活動を多く行う。		
回数	演題・内容		講師
1	演題	持続可能なたまり場を目指して たまり場ブランドの裂き織づくり	染織作家 増野 奈古
	内容	不要になった布を裂いて作る「裂き織」を体験し、裂き織でたまり場ブランドの商品づくりを目指す。	
2	演題	持続可能なたまり場を目指して たまり場ブランドの裂き織づくり	染織作家 増野 奈古
	内容	不要になった布を裂いて作る「裂き織」を体験し、裂き織でたまり場ブランドの商品づくりを目指す。	
3	演題	みんなで作って食べよう会 ～郷土料理で減塩～	小国町福祉課・栄養士 佐藤 久美子
	内容	みんなで郷土料理を作って減塩も学びます。「作って食べる」を楽しむ食のたまり場です。今年はお斎料理を作ります。	



昨年度の成果と課題を踏まえ、今後も、継続的かつ自主的なたまり場運営に取り組み、持続可能な事業としていくことを狙いとする。できれば、参加者の作品を販売するなど「たまりばブランド」を作り、たまり場の認知度をさらに高めながら、関わる人を増やしていく。

4 3年目の講座の実際

【第1回】

たまり場での活動を想定して、不要な布の端切れを使った「裂き織づくり」を行った。講師の増野先生も昨年に引き続いての講座であり、参加者の皆さんもリラックされ、夢中でもの裂き織りに取り組む姿が印象的だった。

参加者も3年目の継続者に加え、新規の参加者もあり、会話も弾み、実際のたまり場での活動をイメージすることができ、とても良かった。



織機を使った「裂き織づくり」を楽しむ受講生

【第2回】

第1回に引き続き、「裂き織りづくり」を行った。今回も参加者同士が教え合ったり、会話を楽しんだりしながら活動を行うとともに、地元の小国杉の端材を使用したたまり場ブランドの商品化への意欲も高まった。

参加者も、新しい技法を学んで大変意欲的に製作に取り組む姿が見られた。今後も、継続できる手応えがあった。



「裂き織づくり」の新しい技法を学ぶ受講生

【第3回】

たまり場における活動を想定して「減塩についての学習」と「郷土料理づくり」を学ぶしさ、作る楽しさ、食べる楽しさを学ぶ活動を行った。今年度は、郷土に伝わる、『お斎（おとき）料理』を作ってたべることを目的に、各家や地域に伝わる調理方法やお椀等、昔を思いだしながらの会話もはずみ、終始笑顔があふれる活動となった。

調理後も、美味しい料理をいただきながらの会話がはずみたまり場としてのイメージを具体的にとらえることができた。



みんなで楽しく「お斎料理」づくり

5 3年目の成果と課題

【成果】

今回の講座で、地域の「たまり場」のイメージを明確に持つことができたと共に、定期的に集まる場のニーズを実感した。新しい参加者が加わりやすいような雰囲気づくりや内容の検討が継続的に必要だと感じた。また、学校教育や生涯学習とのつながりも期待されるため、今後も幅広い参加者を募り、活動の幅を広げ、地域住民の生きがいの場となるようにしたい。

【課題】

各講座ともに参加者が少なく、固定化が見られた。町民への周知方法等について検討を図るとともに、今後は、「たまり場」が継続し自主的な運営につながられるよう、サポートしていきたい。

また、幅広い年代やニーズに応えられるような活動内容や時間設定などを考え、活動を更に広げていきたい。

6 今後の展開

本年度で、3年間の「地域の人づくり講座」が終了したが、今後は、これまでの経験を活かして、継続的かつ自主的なたまり場運営ができるようにしたい。また、たまり場の認知度をさらに高め、たまり場に関わる人を増やし、地域活性化や地域住民の幸福度増に繋げたい。

2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告

【事例3】山村留学を核とした、地域人材の発掘、育成を目的とした講座（産山村）

1 1年次の計画

地 域 課 題		
○地域には様々な知識や技術を持つ人材はいるが、まだまだ多くの人が埋もれている状況である。 ○地域の人材に講師として活躍してもらいたい。		
↓		
事 業 目 標		
山村留学を核として、自然活動や農業体験等について子どもたちに指導等ができる人材の発掘、育成を通して、産山の自然や産業等の魅力を伝え、産山村が一体となって移住定住の促進につなげる。		
↓		
講 座 企 画		
テーマ	地域の魅力 再発見！産山プロジェクト ～人・もの・地域のコミュニティづくり～	
講座目標	山村留学を核とし、地域人材の発掘、育成を通して、産山の自然や産業等の魅力を伝え、産山村が一体となって移住定住の促進につなげる。	
方法	関係団体のつながりづくりを重視した講義やワークショップ形式の研修	
回数	演題・内容	講師
1	演題	一般財団法人 「星のふるさと」 専務理事 井上 茂美
	内容	
2	演題	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	
3	演題	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	

2 2年次の計画

講座企画			
テーマ	地域の魅力 再発見！産山プロジェクトⅡ ～もりあがろう！ 人・もの・地域のコミュニティ～		
講座目標	地域人材の育成を通して、産山村の自然や産業等の魅力を再発見する資質を高め、地域コミュニティにおける総合力の向上を目指す。		
方法	関係団体のつながりづくりを重視した講義やワークショップ形式の研修		
回数	演題・内容		講師
1	演題	人が住みたくなる地域づくり ～未来志向の取組でふるさとを元気に～	熊本県立大学 教授 柴田 祐
	内容	先進地事例を通して、人口減少等の変化を前向きに捉えた地域づくりについて学ぶ。	
2	演題	地域を元気にする活動の在り方 ～公民館活動の活性化を見据えて～	
	内容	公民館活動の活性化を目指し、地域の魅力についての語り合いを通して、未来のアイデアを出し合うことで仲間づくりの素地を作る。	



2回の講座を通して、地域づくりの進め方や課題の把握について、参加者と共有することができた。引き続き、先進事例を学ぶ講座を実施するとともに、学んだことを活かして実際の村おこし活動や山村留学、移住定住を支援する土壌づくりを行う。

3 2年目の講座の実際

【第1回】

第1回は、熊本県立大学環境共生学部教授の柴田祐氏を講師に招き、「人が住みたくなる地域づくり～未来志向の取組でふるさとを元気に～」という演題で講演をしていただいた。

人口減少社会における課題から、「関係人口」を増やしていくことの重要性に触れた後、移住における3つのハードル「住居」「仕事」「コミュニティ」について説明された。

また、日本各地の移住・定住施策の成功例や柴田教授が実際に携わっておられる五木村での実践等、多くの事例も紹介された。

内容が、産山村の現状とリンクしており、講座終了後の質疑も盛んに行われた。

【第2回】

前回に続き、熊本県立大学環境共生学部の柴田教授から「地域を元気にする活動の在り方～公民館活動等を見据えて～」という演題で講演をしていただいた。

前回の内容を踏まえつつ、公民館に焦点を当て、『「まちづくり」にとって大切なことは、住民が主体となってまちをよくするために協働することであり、公民館は、そのための拠点となること』について説明していただいた。

行政だけでなく、多様な立場の住民がまちづくりのために動いている県内の事例も紹介され、産山村での地域づくりにも示唆を与えるものとなった。



講演の様子



移住への流れについての説明



公民館活動について熱心に聞き入る参加者

4 2年目の成果と課題

【成果】

産山村の各種団体のリーダーが、本講座を通して、まちづくりに関する豊富な情報や知識を得ることができた。受講者アンケートには「一つの団体ではなく関わりのかる団体で町おこしすることが重要であることが分かった」という前向きな意見が多く、今後の地域づくり、定住、移住に向けた取組に対して意欲の高まりが感じられるようになった。

【課題】

広報する内容と対象者を絞って広報活動を実施する必要がある。

講座を開催する日時や時間の検討が必要である。特に冬季の開催は、降雪も予想されるため検討が必要である。

5 3年目以降の展開

「地域づくり」に関して、理念や課題意識を共有することができてきた。引き続き、公民館活動、村おこし活動への理解を図る。次年度は地域おこしの実践に向けて、先進事例を学ぶ講座を開催し、地域おこし活動や山村留学、移住定住を支援する土壌づくりに取り組んでいきたい。

【事例4】地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目的とした講座（和水町）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域学校協働活動の分野で、本の読み聞かせなどの地域活動を行うボランティア人材の育成や新たな人材の発掘不十分である。 ○公民館自主講座の企画・立案を推進する仕組みづくりが必要である。



事 業 目 標
若い世代だけでなく、子育てや仕事を終えて、自分の時間を持てる、リタイヤ世代の方々に「子育て世代のサポーター的役割」を担っていただけるような取組に繋げる。



講 座 企 画			
テーマ		みんなが子育てサポーター！ ～楽しい図書室と居場所づくり～	
講座目標		地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目指し、1年目は、本の読み聞かせを行うボランティア人材の育成を行う。また、地域住民への本講座の周知を図る。	
方法		受講対象者を子育て世代やリタイヤ世代と幅広く設定し、講義形式とワークショップ、体験活動を取り混ぜて行う。	
回数		演題・内容	講師
1	演題	読書応援ボランティア講座① ～絵本ってこんなにおもしろい！ 読み聞かせのい・ろ・は～	くまもと県民カレッジ認定講師 永塩 和佳
	内容	読書応援ボランティア講座をととして、地域の読書活動に対するサポーター的人材育成を目指す。	
2	演題	読書応援ボランティア講座② ～絵本ってこんなにおもしろい！ 読み聞かせのい・ろ・は～	くまもと県民カレッジ認定講師 永塩 和佳
	内容	絵本の世界を楽しむ講座の開催を行い、読書の魅力を広く伝えるとともにサポーター的役割の活動の幅を広げる。	
	内容	持続可能な活動にしていくために、今後の計画や活動内容等について考える。	



参加者アンケートをもとに、次年度への展開を検討する。また、参加者リストをもとに、更なる地域人材の発掘を推進する。
--

2 2年次の計画

地 域 課 題
○地域学校協働活動の分野で、本の読み聞かせなどの地域活動を行うボランティア人材の育成や新たな人材の発掘不十分である。 ○公民館自主講座の企画・立案を推進する仕組みづくりが必要である。



事 業 目 標
若い世代だけでなく、子育てや仕事を終えて、自分の時間を持てる、リタイヤ世代の方々に「子育て世代のサポーター的役割」を担っていただけるような取組に繋げる。



講 座 企 画			
テーマ		みんなが子育てサポーター！ ～地域の楽しい居場所づくり～	
講座目標		地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目指し、2年目は、子どもの居場所づくりやボランティアの活性化等、地域人材の活用へ向けたワークショップ等を行う。	
方法		受講対象者を子育て世代やリタイヤ世代と幅広く設定し、講義形式とワークショップ、体験活動を取り混ぜて行う。	
回数		演題・内容	講師
1	演題	地域の人づくり講座① ～とばしてあそぼう！紙ヒコーキ～	くまもと県民カレッジ認定講師 荒木 康孝
	内容	紙ヒコーキづくりの講座をとおして、地域の子育て世代のサポーター的人材育成を目指す。	
2	演題	地域の人づくり講座② ～癒やしのひと時を…ハndsプレー作り～	くまもと県民カレッジ認定講師 萩尾 泰宏
	内容	今までにない内容の講座を通して、広く興味関心の持てるサークル活動のリーダー育成を目指す。	



参加者アンケートをもとに、次年度への展開（ワークショップ）を検討する。また、参加者リストを基に、更なる地域人材の発掘を推進する。
--

3 2年目の講座の実際

【第1回】

いつも内容的に女性の参加者が多いため、男性が参加しやすい講座を企画した。講座終了後の参加者からは、「童心に返ることができた。」「いくつになっても子どもみたいに楽しかった。」等の声が聞かれた。講師の先生からは、これまで、教わったことのない、珍しい紙ヒコーキの折り方や遠くにとばすコツや長くとばすコツ等を教えていただき、男性の参加者のみならず、女性の参加者も大変満足されていた。放課後児童教室などで、子供たちに教えていただきたい。



「遠くに飛ぶ紙ヒコーキ」のコツを学ぶ受講生

【第2回】

少人数の対象者の講座ではあったが、講師の丁寧な説明とご指導で、癒やしの時間を過ごすことができた。様々な種類の植物に関する座学もあり、参加者からは、においやスプレーの効能に関する質問なども多く寄せられ、関心の高さがうかがえた。すてきな香りの世界に一つだけの手作りルームスプレーに参加者の皆さんも大変満足して帰られた。



「ハンドスプレー」作りに夢中な受講生

4 2年目の成果と課題

【成果】

今回の講座で、昨年度までいっしょになかった男性の参加者が増えたことは良かった。今までにない目新しい内容に関心を持ち、初めて参加してくださる方も多かった。講座の内容次第では、更なる参加者増につながると思うので、次年度も工夫していきたい。また、今回受講した講座を基に、放課後子供教室や地域学校協働活動等で、子供たちや学校に関わってくださることが期待されるので、子育て世代のサポートとして、是非、活躍していただきたい。

【課題】

地域人材の掘り起こしを行うために、本講座の周知について工夫する必要があると感じた。町広報や公式LINEの活用だけでなく、講座内容に興味を持つような方が集まる場所に出向き、PRすることも必要だと感じた。また、今回の学びを活用できる場、活躍の機会を計画的に設定する必要がある。

5 3年目以降の展開

次年度は、講座のバリエーションを広げ、ボランティア養成講座の更なる充実を図りたい。また、できれば、受講生の方が主になった自主講座の開設も目指していきたい。

3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告

【事例5】地域人材の育成・活用による公民館講座の実施を目的とした講座（上天草市）

1 1年次の計画

地 域 課 題		
○少子高齢化や人口減少により、地域や公民館の活動回数や内容に地域差があったり、地域行事や公民館活動への住民参加が少ない地域があったりしている。 ○地域を活性化する持続可能な活動を企画・運営できる人材が固定化するなど、人材が不足している地域がある。 ○人材バンクが作成されていないなど、地域リーダーが発掘できていない。		
事 業 目 標		
持続可能な活動を企画・運営できる人材を発掘・育成し、地域や公民館活動を活性化する。		
講 座 企 画		
テーマ	みんなで考えよう！楽しい講座やイベント！	
講座目標	最終目標：毎年少なくとも1回は持続可能な活動を公民館や地域で実施する。 ○1年目 地域リーダーを発掘・育成し、イベントの企画書を作成する。 ○2年目 活動を実践・評価しながら次年度の持続可能な企画書を作成する。 ○3年目 企画書に沿った各事業の活動報告会を開催し、持続可能なイベントを継続的に実施する。	
方法	○ケーススタディ・ケースメソッド・講話・ワークショップ・実習（実践）活動報告会	
回数	演題・内容	講師
1	演題	一般社団法人パレット 代表理事 大滝 祐輔
	内容	
2	演題	熊本大学 熊本創世推進機構 准教授 田中 尚人
	内容	
3	演題	熊本県立大学 教授 柴田 祐
	内容	
4	演題	内閣府 地域活性化 伝道師 三角 幸三
	内容	

5	演題	広報（チラシ）の仕方や作り方を学ぼう	株式会社（談） 甲斐 由貴
	内容	集客力が向上する広報の仕方を知り、実際にチラシを作成する。	



- 活動報告会を開催し、情報効果の場とすると共に地域リーダーの交流の機会とする。
- 講座やイベントの評価を行いながら、新たな活動の企画書を作成し、実践していく。

2 1年目の講座の実際

【第1回】

地域資源を活かした事例として、甲佐町におけるまちづくりについて学ぶことができた。古民家再生の事例は、地域でのイベント企画などの参考になった。受講者からは多くの質問も寄せられ、熱心に学ぶ姿が見られた。



「パレット」の取組を熱心に学ぶ受講生

【第2回】

「地域のお宝を発見しよう」というテーマでの講座で、熊本大学の田中 尚人准教授によるワークショップも好評だった。上天草高校生による、海を活かした体験活動と宿泊をセットにした企画や空き家を改修したカフェなどの提案が紹介された。

上天草市の事例だったためか、受講生の関心がとても高かった。



「ワークショップ」で話し合う受講生

【第3回】

「地域リーダーの役割を学ぼう」というテーマで、熊本県立大学の柴田 祐教授による講義を拝聴した。

ネットワーク型の組織づくりやリーダーシップの本質などについての話で、リーダー以外の役割についても学ぶことができた。



「地域リーダー」の役割について学ぶ受講生

【第4回】

「企画書を作ろう」というテーマで、内閣府地域活性化伝道師の三角 幸三氏にワークショップ形式での講座を行っていただいた。企画書づくりについて、人や物をみて、プログラムづくりをすることや、受講生の興味を引くような絵や「宝物を探せマップ問題」などが紹介された。



「企画書づくり」について学ぶ受講生

【第5回】

「広報やチラシの作り方を学ぼう」というテーマで、株式会社（談）の甲斐 由貴氏に講座を行っていただいた。

人が参加したくなるような広報やチラシの作り方について具体的にワークショップを取り入れながら学ぶことができた。心理面を利用したチラシ作りは参考になった。

3 1年目の成果と課題

【成果】

受講生の地域イベント等への関心を高めることができた。地域の自然や文化など、身近な素材を生かした地域イベントの企画づくりや効果的なチラシづくりについて、より広く学ぶことができた。

【課題】

参加者が高齢者中心になってしまったので、次年度からは、若い世代の受講生の参加を呼び掛けていきたい。

4 2年目以降の展開

○中学生の参加を促しながら、中学生の考えを生かした企画書の作成を行っていきたい。

○実際に企画・運営した地域イベントの活動報告会を開催したい。

○ワークショップを行いながら、さらに受講生の交流を図りたい。

第4章 学習機会提供事業

【くまもと県民カレッジ主催講座①】

コース名	友好台湾コース		
テーマ	身近な国！「台湾」の魅力！ ～交流からはじめる“朋友”（友だち）づくり～		
背景	台湾の半導体企業であるTSMCの熊本進出に伴い、台湾から駐在員や家族が来熊される。今後さらに交流が進む台湾について学び、よりより関係づくりが求められる。		
ねらい	台湾の歴史や文化を学ぶことを通して、県民の国際理解を深め、友好関係づくりにつなげる。		
回	演 題	講 師	日 時
1	台湾と日本(熊本)の関係 ～歴史から見える深いつながり～	尚綱大学 准教授 村島 健司	火曜 10:00～ 11:30
2	台湾の魅力！ ～台湾のお国自慢&在熊台湾コミュニティ紹介～	くま台湾 Neo「臺灣人在 熊本的生活」ウェブサイト 運営メンバー 邱 桂芬	
3	台湾で敬愛される熊本人 ～日台の架け橋「志賀哲太郎」～	郷土史家 増田 隆策	
4	台湾を身近に感じよう！ ～楽しもう！文化体験・交流活動～	台熊友好会 運営メンバー 徐 秋美 松岡 光希	
5	台湾を楽しむ！ ～プラン作成「わたしの〇〇旅」～	(株)三普旅行社 九州支社 部長 伊東 靖之	

<成果>

○TSMCに関連する産業事情や最新の観光情報等、多角的に台湾を知ることができ、受講者からは「次回の旅行が楽しみになりました。」等の声が聞かれた。

○台湾の歴史や熊本との関りについて詳しく知ることができ、受講者も十分満足した様子だった。



☆実施上のポイント☆

○様々な角度から「台湾」を知る

TSMCの進出により、さらに交流が盛んになるであろう台湾について、「半導体産業」「観光」だけではなく、「歴史」や「熊本との関わり」についても焦点をあて、台湾についての理解が深まるよう構成した。



【くまもと県民カレッジ主催講座②】

コース名	科学技術コース
テーマ	今こそ学ぶ「半導体」 ～半導体産業から見える新たな世界～
背景	コロナ禍、世界中が半導体の供給不足に陥り、工業生産は大きな打撃を受けた。人類にとって重要なものでありながら、多くの人が持つ知見は少ない。
ねらい	現代生活に必須となり、産業のコメと呼ばれる半導体について、その開発の歴史や仕組み、価値に焦点を当て、知識の深化を図る。

回	演 題	講 師	日 時
1	私たちの生活を支える半導体 ～こんなところにも半導体～	熊本大学半導体・デジタル研究 教育機構 半導体部門長・教授 飯田 全広	月曜 14:00～ 15:30
2	半導体って何？ ～歴史から作り方まで～	熊本大学半導体・デジタル研究 教育機構 半導体部門長・教授 飯田 全広	
3	産業のコメ「半導体」 ～半導体と世界経済～	熊本大学半導体・デジタル研究 教育機構 半導体部門長・教授 飯田 全広	
4	熊本県半導体集積について	熊本県商工労働部 産業支援課 主席審議員兼課長 辻井 翔太	
5	セミコン熊本の歴史的変革 ～急成長する熊本の半導体産業～	熊本県産業振興 顧問 今村 徹	

＜成果＞

- 受講者からは「漠然としたイメージしかなかった半導体ですが、その機能や常用性を学ぶことができた。」等の声が多く聞かれた。
- 半導体（回路、I C、L S I）が使用されているサンプルに触れることで、受講者も楽しみながら、半導体について学びを深めることができた。



☆実施上のポイント☆

- 「半導体」について理解を深める

知っているようで実はあまり知らない半導体の世界。理解を深めるために、機能ばかりではなく、多角的な視点から半導体を見つめるとともに、実物に触れる体験活動も取り入れた。

【くまもと県民カレッジ主催講座③】

コース名	哲学カフェコース
テーマ	初心者のための哲学カフェ ～のんびり・ゆったり語りませんか？～
背景	人生や人間関係、地域社会などに関して漠然とした疑問や不安を抱き、それらの問題について他人と一緒に考えたいと望む人がいる。
ねらい	多様な人々が公共的な場所に集まり、共通のテーマについて対話することで、自分自身の価値観や自分とは異なる視点や考えに気づく。

回	演 題	講 師	日 時
1	「哲学」とは何か ～はじめての哲学的思考～	熊本大学文学部 准教授 大辻 正晴	木曜 14:00～ 15:30
2	哲学対話Ⅰ	熊本 哲学カフェ 老化損塾 如水庵 塾長 福山 洋	
3	哲学対話Ⅱ		
4	実践「哲学対話」 ～コーヒ一片手に語りませんか～		

＜成果＞

- 哲学を学ぶだけではなく、対話を通して互いの考えを伝えあう中で、相互理解が深まり、受講者同士のつながりが強くなり、交流が深まった。
- 「人との対話、知り合うということ等、生きていく上での大切なことを学ぶことができた。」といった感想が多く寄せられた。



☆実施上のポイント☆

- 「語り合い」の活動を取り入れて

「哲学」を難しく考えるのではなく「そもそも～とは？」とのんびり考え、他の人の意見にゆったりと耳を傾ける活動を多く設定した。

また、リラックスして「対話」を楽しめるようお茶、コーヒーも提供した。



【くまもと県民カレッジ主催講座④】

コース名	戦争と平和コース
テーマ	「あの日」の記憶をたどる ～わたしのまちでも戦争があった～
背景	終戦から78年となり、戦争を体験した方から直接話をうかがう機会が減り、戦争の記憶や教訓を次の世代にどう伝えていくかが課題となっている。
ねらい	県内には、戦争を後世に伝える数々の戦争遺構がある。これらをもとに戦争の記憶を語り継ぎ、平和の大切さについて考える機会とする。

回	演 題	講 師	日 時
1	終戦から79年 ～戦禍の熊本を知る～	熊本大学 名誉教授 堀 浩太郎	水曜 14:00～ 15:30
2	県北の戦争遺跡に学ぶ ～荒尾・玉名・菊池・阿蘇～	くまもと戦争遺跡・文化遺産 ネットワーク 代表 高谷 和生	
3	県央の戦争遺産・フィールドワーク ～大江の戦争遺跡を歩く～ ※現地学習		
4	県南の戦争遺跡に学ぶ ～にしき ひみつ基地ミュージアム～	錦町立人吉海軍航空基地資料館 館長 手柴 智晴	
5	今、戦争と平和について考える ～戦時資料が語りかけるもの～	(一社)くまもと戦争と平和の ミュージアム設立準備会 理事 上村 真理子	

<成果>

- フィールドワークでは、実際の戦争遺跡を前にして、講師から説明を受けることで、実感を伴った理解につながった。
- 各回とも講師が準備した豊富な資料や展示物が活用され、受講者が当時の生活や教育について詳しく学ぶことができた。



☆実施上のポイント☆

- 現地学習（フィールドワーク）を取り入れて
本コースでは、講義を受けるだけではなく、現地学習を取り入れ、実際に史跡を見たり、触れたりしながら他の受講者と意見交換をする機会を設けた。



大阪市立総合生涯学習センター

（運営方針）

生涯学習を通じて、誰一人取り残されずに互いにつながり支え合い、ともに育つ持続可能な共生社会づくりに貢献します

5つの役割

- ① 情報収集・提供と学習相談
- ② 現代的社会的課題に関する学習機会の提供
- ③ 人材養成・研修
- ④ 企画開発とネットワーク
- ⑤ 区域や地域における生涯学習への支援（教育コミュニティづくり支援）

（1）施設の概要

大阪市立総合生涯学習センターは、大阪駅前第2ビルにある学習施設である。センターはこのビルの5階全体と6階の一部を利用している。大阪駅前第2ビルには、商業施設や大学のサテライトキャンパスなども入っており、さまざまな用途に使われる複合施設となっている。

また、大阪市にはこのセンターのほかに、「大阪市立阿倍野市民学習センター」と「大阪市立難波市民学習センター」の2つの施設があります。これら3つの施設が連携し、市民の生涯学習を支援している。

（2）施設運営の特徴

「情報収集・提供と学習相談」「現代的社会的課題に関する学習機会の提供」「人材養成・研修」「企画開発とネットワーク」「区域や地域における生涯学習への支援」という5つの役割を事業の柱とし、様々な事業が行われている。ここでは、先進的な事業事例として、「人材の養成・研修」について紹介したい。

ア 生涯学習まちづくり市民大学「いちょうカレッジ」

大阪市生涯学習まちづくり市民大学「いちょうカレッジ」は、開かれた市民大学として「学んだことを地域で生かす」ことをテーマに掲げ、学びと実践の循環を実現し、魅力的な地域づくりをサポートしていこうとする取組である。

入門科、プレ本科、本科、専科があり、受講者が自身の興味関心や課題意識に合

わせて選択することができ、体系的に学びを深めることができる。(必ずしも、入門科→プレ本科→本科→専科という順に受講する必要はない。どの講座を受講するかは受講者が選択することができる。)

【令和6年度】

○入門科

- ・大阪を語ろう～好きやねん大阪～コース 2回
- ・未来に向けての第一歩コース 3回

○プレ本科

- ・まちにサンカク!「つくる・つたえる・つながる」コース 5回
- ・大阪の魅力発信コース 5回

『まちにサンカク!「つくる・伝える・つながる」』コースは、毎週金曜日の19時から19時からの講座で、まちづくりに興味のある比較的若い世代(20代、30代、40代)の受講が多い。『大阪の魅力再発見』コースは、毎週火曜日の14時から14時からの講座で、地域の文化に興味のある比較的高齢の方の受講が多い。さらに学びを深めたいという方は、「本科」の講座で学ぶような流れになっている。

○本科

- ・まちにサンカク!「つくる・伝える・つながる」 12回
- ・大阪の魅力再発見 12回

本科は3つのコースがあり、学んだことを地域で活用していけるようになることを目指し、必要な知識の習得だけでなく、学んだことを生かしてまち歩きのコース企画や実施、イベントへの出展なども行っている。

本 科 (全3コース)		実際に地域で活動したい人のための長期コースです。多岐の事例や手法を学び、様々な実践やワークショップを通じて、学びのアウトプットをめざします。
H-1 まちにサンカク!「つくる・つたえる・つながる」コース		
9/27～12/13 毎週金曜日 19:00～21:00 全12回 定員20名(※11/22は休講)		
手を動かしてつくり、思いや考えを伝えることで、人と人、人とまちが繋がっていく。自らを表現しながらまちに参画していく技術について学びます。本科では人・物・事・場所や社会に繋がるメディア資源としての「まち」を「メディア」の制作を受講者それぞれが行い、「つくる・つたえる・つながる」を実施します。		
※主催講師：山本 あつし (法政大学大阪 メディア造形学部 デザイン学科 准教授(専攻プロデューサー))		
日 程	タイトル/議題	内 容
9/27	オリエンテーションと自己紹介	それぞれが何を求めてここに集まったのかまずは受講者どうし、お互いのことを知り合うことから始めましょう。
10/4	で、「メディア」って何？	屋台の歴史やいくつもの事例から屋台について知り、メディアの歴史としての屋台について考えます。
10/11	実際にいる屋台についてみよう	屋台活動の実践者をゲストに招き、お話を伺います。
10/18	メディア屋台で何を表現する？	それぞれの考え、やりたいことを手紙に、メディア屋台で何を伝えるのかを話し合いながら考えていきます。
10/25	メディア屋台で何を表現する？	メディア屋台をつくることでどんな屋台を表現したいのか、決定しながらいよいよ制作をスタートします。
11/1	メディア屋台を設計しよう	屋台の中に何をメディア屋台のイメージを、まずは紙に描いてみます。意見を交わしながら進めていきます。
11/8	メディア屋台の制作	いよいよ屋台(主にダンボール)を使って、実際にメディア屋台をつくりましょう。
11/15	メディア屋台を制作しよう	屋台のデザインを完成させるための最終準備。
11/22	メディア屋台を公開しよう(休講)	11/22は11/22の文化祭(総合フェスタ)で、メディア屋台を公開します。
11/29	発表会①	メディア屋台の制作から制作、そして実際に公開した感想をみんなでお話しします。
12/6	発表会②	メディア屋台の制作から制作、そして実際に公開した感想をみんなでお話しします。
12/13	お礼の会	本科での学びをみんなでお話ししましょう。
H-2 大阪の魅力発信コース		
10/22～2/25 毎週火曜日 14:00～16:00 全15回 定員24名 参加費1,000円(履修料及び資料代)(※12/24～1/7、2/11は休講)		
まちの魅力を盛り込むための講座・ワークショップや、まち歩きの実践・まち歩きガイドの実践を通して、大阪のひととまちの魅力を伝える「まちのエディター」をめざします。		
※主催講師：佐藤 賢 (法政大学大阪 法政大学デザイン学部 准教授(専攻プロデューサー))		
日 程	タイトル/議題	内 容
10/22	オリエンテーション 自己紹介とまち歩き	はじめましての自己紹介と、自己のイメージとまち歩きについてみんなでお話ししましょう。
10/29	まちの魅力を伝える / まち歩きに出かけよう①	毎回はまちの魅力を伝えるヒントを学び、後半では、大阪まち歩き大学(法政大学)のまち歩きコースを実施します。
11/5	商業施設街のまち歩きに学ぶ	商業施設街でのまち歩きについて学び、後半では、大阪まち歩き大学(法政大学)のまち歩きコースを実施します。
11/12	まちの魅力を伝える / まち歩きに出かけよう②	まちの魅力を伝えるヒントを学び、後半では、大阪まち歩き大学(法政大学)のまち歩きコースを実施します。
11/19	まちの魅力を伝える / まち歩きに出かけよう③	まちの魅力を伝えるヒントを学び、後半では、大阪まち歩き大学(法政大学)のまち歩きコースを実施します。
11/26	まち歩きガイドについて / まち歩きガイドの作り	これからのグループで実施するまち歩きガイドの制作について学び、まち歩きガイドの制作を進めていきます。
12/3	【グループ活動】まち歩きガイドの制作①	まち歩きガイドの制作を進めていきます。
12/10	【グループ活動】まち歩きガイドの制作②	まち歩きガイドの制作を進めていきます。
12/17	【グループ活動】まち歩きガイドの制作③(完成)	まち歩きガイドの制作を進めていきます。
1/14	まち歩きに出かけよう④	大阪まち歩き大学(法政大学)のまち歩きコースを実施し、これからのグループで実施するまち歩きガイドの制作を進めていきます。
1/21		
1/28		
2/4	【最終発表】チャレンジ! まち歩きガイドの実践	これまでの学びをもとに、まちの魅力を伝えるまち歩きガイドに挑戦します。
2/18		
2/25	振り返りまとめ	全15回の講座を通しての振り返りを行い、講座の学びを今後の活動につなげます。

「いちようカレッジ」パンフレットより

- ・本科特別コース まちづくりのアクションプラン実践コース 5回

本科特別コースは、より実践的な内容になっており、まちづくり事業を企画する際の、分析力・企画力・計画力を身に付けるため、市場調査やマーケティングを行い、事業計画を立て、それぞれの活動テーマについての企画書を作成する。

○専科

- ・いのちを守る防災コース 4回
- ・こどもと地域社会コース 5回
- ・市民活動団体立ち上げ入門コース 3回
- ・SNSで情報発信コース 3回
- ・地域と人をつなぐ場を学ぶシェアスペース・レンタルスペース活用コース 4回
- ・まちと関わるきっかけ作りコース 4回



さらに専門的な知識や技術を学ぶために「専科」が設定されている。令和6年度は、上記の6つのコースが全3回から5回の連続講座として行われた。

このように、「いちようカレッジ」では、知識や技術の伝達のみにとどまらず、ここで学んだことを生かし、受講者が、まちづくりに参画していくという学びのサイクルが確立されている。また、本講座では、参加者同士の交流を進める講座が多数用意されているのも特徴的で、学びを通じた地域づくりの基盤となっている。

イ 大阪市生涯学習推進員研修事業

大阪市では、地域社会における身近な学習と交流の拠点として、市内の全小学校に生涯学習ルームが開設されており（ただし、一部休止中の学校もあり）、市より「大阪市生涯学習推進員」が委嘱されている（約1200名）。生涯学習推進員は、地域住民の学習ニーズに基づいた講習・講座の企画や学習に必要な情報の提供、学習相談への対応など、小学校区単位での生涯学習の支援を行っている。

大阪市立総合生涯学習センターでは、生涯学習推進員の「養成講座」と「3年次研修」が行われている。

【養成講座】

地域における生涯学習を推進するコーディネーターとして必要な知識を習得するための講座。（原則として当該校区の居住者）

オリエンテーション	基本科目	基本科目を含む全科目	会議などへの参加または基本科目からもう1科目	合計
1科目	1科目	1科目	1科目	4科目

【3年次研修】

生涯学習推進員に委嘱又は再委嘱をされた方で、3年目を迎える方及び希望する生涯学習推進員を対象に行う研修。（市内各地域において生涯学習を推進する中心となる人材を養成）

推進員経験年数	基本科目	基本科目含む全科目	合計
3年目・6年目	1科目	2科目	3科目
9年目	1科目	1科目	2科目
12年目以上		1科目	1科目

「基本科目」は生涯学習についての概論、大阪市の生涯学習施策や推進員制度について、基本科目以外の「選択科目」には、「地域で役立つ！話し合いの進め方」等の実践的な内容の講座となっている。

このように、市内全小学校区での生涯学習ルームの設置と生涯学習推進員を配置することにより、市民の生涯学習への関心、意欲を高めるだけでなく、生涯学習について学んだ研修参加者の活動する場所と役割を保証することにもつながっている。

（3）まとめ

大阪市立総合生涯学習センターは「いちょうカレッジ」や「生涯学習推進員研修」等、多様な取組を通じ、地域住民への学習機会の提供だけでなく、センターでの学びをきっかけとして地域課題に関心を持つ人材育成の役割を果たしている。

今後は、受講者との関係性づくり、修了者とのネットワークづくりにさらに力を入れ、修了者の自主グループ化のための支援も検討しているとのこと。

熊本県においても、学んだことを社会で生かすことや受講者・修了者に活躍の場の保証を検討するにあたってこれらの取組は大いに参考になると考える。

この調査は、県内の生涯学習講座の現状等を調査し、生涯学習振興を図るための資料とすることを目的としています。御多用の折とは存じますが、調査の趣旨を御理解の上、御協力いただきますようお願い申し上げます。なお、調査結果は、「調査研究事業報告書」としてまとめ、公表いたします。

○記入について

- ・ 選択式の質問は、該当する選択肢のセルに○印をつけてください。
- ・ 記述式の質問は、該当があれば内容を記述ください。

○提出について

御記入いただきました調査票は、令和7年(2025年)2月14日(金)までに、メールにて御提出ください。

〔提出先〕 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課(担当:伊豫) メール:iyo-k@pref.kumamoto.lg.jp

市町村名			所属		
記入者	職		名前		
連絡先	電話番号		メールアドレス		

本年度の主催講座・講演会について

問1 本年度、貴市町村の教育委員会(公民館等も含む)主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。(予定も含む)

☐ ア 実施した(する予定)	→ 問2へ
☐ イ 実施していない(予定していない)	→ 理由:
	→ 問3へ(3ページへ)

問2 問1で「ア 実施した(する予定)」と回答した市町村にお尋ねします。

(1) 本年度実施した(予定)講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

☐ ア 健康
☐ イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
☐ ウ 環境／人口・食糧／資源・エネルギー
☐ エ 高齢化社会
☐ オ 生命
☐ カ 豊かな人間性
☐ キ 消費者問題
☐ ク 地域の連帯／まちづくり
☐ ケ 男女共同参画型社会
☐ コ 科学技術
☐ サ 情報の活用
☐ シ 国際理解／国際貢献・開発援助
☐ ス 防犯・防災
☐ セ 食育
☐ ソ 法教育
☐ タ 経済
☐ チ 起業
☐ ツ 人権
☐ テ 職業上必要な知識・技能
☐ ト 個人のキャリア開発
☐ ナ ボランティア活動の推進
☐ ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
☐ ヌ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
☐ ネ その他

(2) (1)の講座等の合計実施回数を下から選んでください。(予定も含む)

☐ ア 1～5回
☐ イ 6～10回
☐ ウ 11～20回
☐ エ 21～30回
☐ オ 31回以上

(3) (1)の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。

- ☐ ア すべて1回ごとの単発の講座や講演会である。
☐ イ 連続した講座や講演会もある。
 (「連続した」とは、1つのテーマで異なる内容の講座を複数回実施すること)

(4) (1)の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕

- ☐ ア 地域の大きな課題だから
☐ イ これまで継続して実施しているから
☐ ウ 住民のニーズが高いから
☐ エ 他の市町村でも実施しているところが多いから
☐ オ 他部局や関係団体等との連携が可能だから
☐ カ 講師選定が容易だから
☐ キ 人が集まりやすいから
☐ ク その他

(5) (1)の講座等を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関(構成員を含む)がありますか。

- ☐ ア ある
 連携・協力した個人・機関を下から選んでください。〔複数回答可〕
☐ ア 他市町村教育委員会(公民館等を含む)
☐ イ 首長部局
☐ ウ 学校教育関係機関
☐ エ 大学等高等教育関係機関
☐ オ 社会教育関係団体
☐ カ NPO法人他、民間団体
☐ キ 民間企業
☐ ク (講座受講生などの)一般住民
☐ ケ その他

☐ イ ない → 問2(7)へ

(6) (5)の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕

- ☐ ア 企画時の相談、情報提供
☐ イ 講師派遣等の人的支援
☐ ウ 施設設備、機材教材等の提供
☐ エ 参加者の募集等の広報面での補助・分担
☐ オ 事業の成果を広めるための連携・協力
☐ カ 経費面での補助・分担
☐ キ 当日の運営面での作業分担、協力
☐ ク その他

(7) (1)の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕

- ☐ ア 講義・講演会形式
☐ イ ワークショップ
☐ ウ フォーラム・シンポジウム
☐ エ 現地学習
☐ オ 体験活動
☐ カ 個別相談
☐ キ インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)
☐ ク インターネットにおける双方向の配信
☐ ケ その他

(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕

- ☐ ア チラシ、ポスター配布
☐ イ 関係機関・団体への直接依頼(チラシの送付)
☐ ウ 回覧板での通知文回覧
☐ エ ホームページ掲載
☐ オ 広報誌掲載
☐ カ 広報誌以外の生涯学習に関する情報誌の発行
☐ キ SNSへの掲載
☐ ク 地域の無線利用
☐ ケ その他

(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕

- ☐ ア 参加者に対するアンケート調査
☐ イ 担当者等による評価
☐ ウ 外部委員による評価
☐ エ 講師による評価
☐ オ その他
☐ カ 実施していない

(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕

- ☐ ア 生涯学習関係課職員や公民館職員
☐ イ 他部局の職員
☐ ウ 地域住民
☐ エ 県や他市町村からの派遣
☐ オ 大学・研究機関からの派遣
☐ カ 民間業者を介して依頼
☐ キ その他

(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕

- ☐ ア インターネット情報
☐ イ 住民(受講参加対象者)の要望
☐ ウ 他市町村に聞く
☐ エ 所属内で検討する
☐ オ リストを作成している
☐ カ 講座内容に関連した他部局や団体等に聞く
☐ キ 講師情報の提供を行っている機関等に聞く
☐ ク 例年同じ人に依頼
☐ ケ その他

(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕

- ☐ ア 駐車場の確保
☐ イ 送迎バス等の運行
☐ ウ 託児の実施
☐ エ 手話通訳、要約筆記
☐ オ 音声ガイド
☐ カ スロープ、多目的トイレ等の設置
☐ キ 休日や夜間の開催
☐ ク インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)
☐ ケ インターネットにおける双方向の配信
☐ コ その他

学習成果活用を目的とした事業について

問3 学習成果活用を視野に入れた講座(人材育成や仲間づくり、人材活用等)を実施しましたか。(予定も含む)

- ☐ ア 実施した(する予定)

(講座名)	(内容)

- ☐ イ 実施していない(予定していない)

子供を対象とした事業について

問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか。(予定も含む)

- ☐ ア 実施した(する予定)

(事業名)	(内容)

- ☐ イ 実施していない(予定していない)

障がい者の生涯学習の推進等について

問5 様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施しましたか。

☐ ア 実施した(実施する予定)

(具体的に)

☐ イ 実施していない(実施する予定はない)

社会の変化やニーズに応じた工夫や取組について

問6 今年度実施した(または実施予定の)事業における工夫や取組(例:新規開設講座、成果があった取組等)について1つ御記入ください。

(具体的に)

住民への提供が必要だと考えられる事業について

問7 今後、住民への提供が必要だと考えられる事業の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

- ☐ ア 健康
- ☐ イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
- ☐ ウ 環境／人口・食糧／資源・エネルギー
- ☐ エ 高齢化社会
- ☐ オ 生命
- ☐ カ 豊かな人間性
- ☐ キ 消費者問題
- ☐ ク 地域の連帯／まちづくり
- ☐ ケ 男女共同参画型社会
- ☐ コ 科学技術
- ☐ サ 情報の活用
- ☐ シ 国際理解／国際貢献・開発援助
- ☐ ス 防犯・防災
- ☐ セ 食育
- ☐ ソ 法教育
- ☐ タ 経済
- ☐ チ 起業
- ☐ ツ 人権
- ☐ テ 職業上必要な知識・技能
- ☐ ト 個人のキャリア開発
- ☐ ナ ボランティア活動の推進
- ☐ ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
- ☐ ヌ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
- ☐ ネ その他

生涯学習推進上の課題や悩み等について

問8 生涯学習を推進する上での課題や悩みがありますか。

- ☐ ア ある → 問9へ
- ☐ イ ない → 問10へ

問9 問8で「ある」と答えた方にお聞きます。課題や悩みの内容をお教えてください。〔複数回答可〕

- ☐ ア 住民のニーズの把握が難しい
- ☐ イ 講座企画が難しい
- ☐ ウ 人が集まらない
- ☐ エ 受講生が固定化している・新規受講生の獲得が難しい
- ☐ オ 講師選定が難しい
- ☐ カ 首長部局や関係機関との連携が難しい
- ☐ キ 講座等で学習したことを活動につなげることが難しい
- ☐ ク 予算が限られている
- ☐ ケ 職員研修の機会が少ない
- ☐ コ 職員数が少ない
- ☐ サ 研修等に関する住民からの相談や対応が難しい
- ☐ シ 住民同士のつながりづくりが難しい
- ☐ ス 施設の老朽化が進んでいる
- ☐ セ その他

その他について

問10 (1) 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。(社会教育指導員が配置されていない市町村は「イ 実施していない」を選択してください)

- ☐ ア 実施している(実施予定) ➡ 問10(2)、(3)へ
- ☐ イ 実施していない ➡ 終了

(2) (1)の研修は、年間、何回実施していますか。数字を入力してください。

回

(3) (1)の内容を具体的に御記入ください。

発 行 者:熊本県
所 属:熊本県教育庁市町村教育局
社会教育課
発行年度:令和6年度(2024年度)